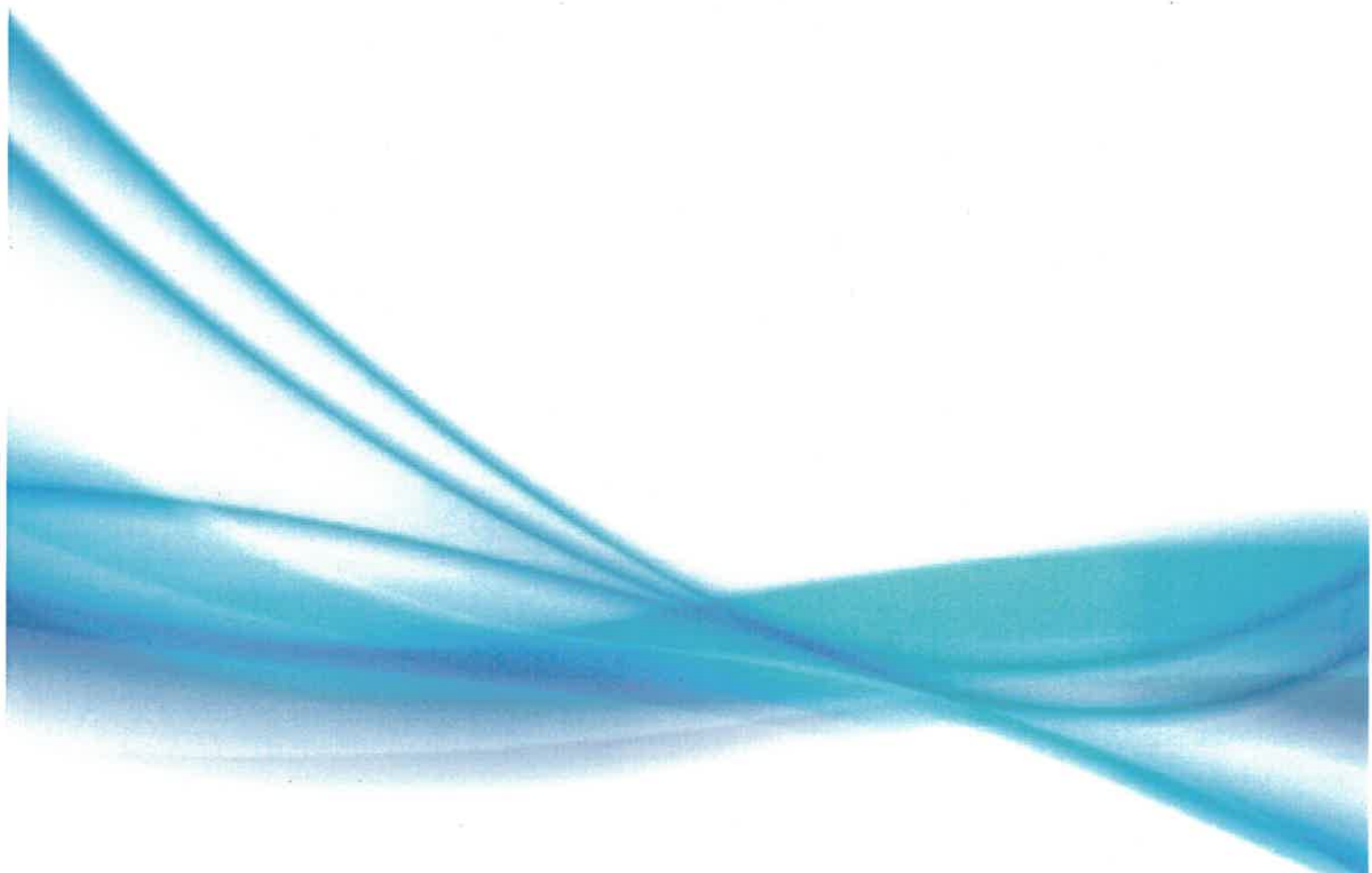


Ⅲ

公開授業 学習指導案



1 単元名 「お気に入りの一首をみつけよう」(「和歌の世界」「古今和歌集 仮名序」「君待つと一万葉・古今・新古今」)

2 指導観

- 本単元は和歌の文学としての位置づけや当時の和歌に対する価値観、それぞれの和歌に用いられる表現の工夫や詠まれた内容などを学ぶことを通して、知識や批評能力を身につけ、和歌に表現されている想いを読みとる力を身につけるとともに、和歌という文学に親しみをもつことができる単元である。本単元の教材は三つである。「和歌の世界」は「万葉集」「古今和歌集」「新古今和歌集」の特徴を中心とした文学史的な解説である。これを読むことで、和歌という文学が、時代の流れの中で磨かれながら発展し続けてきたこと、日本の文化が形成される上で大きな影響力をもったことなどを確認することができる。「古今和歌集 仮名序」は、名文の中に当時の和歌という文学に対する価値観が表れており、「歌」というものがいかに生活に溶け込み、また大きな力をもつものと思われていたのかを知ることができる。この二つの教材で和歌についての概要を学んだ上で「君待つと一万葉・古今・新古今」で、実際の和歌の鑑賞を行う。鑑賞を通して、和歌の表現技法、表現している内容などをつかむことが可能である。和歌について学んだだけで終わるのでなく、その学びをいかして実際に批評したり、多くの和歌に触れたりすることで、より理解が深まり、和歌や文学作品への興味や親近感も増すことができると考える。このことは和歌の知識や和歌への理解、関心を育むとともに、和歌を通して日本語のもつ繊細な表現性や一つの言葉選びがもたらす大きな効果、語彙力をつけることの大切さや言葉にこだわることの重要性などの理解へと発展する効果が期待されると考える。
- 本学級の生徒はこれまでに、第2学年で短歌について学び、その特徴や鑑賞について学習している。これらの学習によって、韻文の表現技法や句切れ等の知識を習得している。また、1学期には俳句についても学び、韻文の作品に関する知識や理解をさらに深めることができている。しかし、生徒は和歌の学習について歌人や歴史的背景、知識事項を暗記するもの、鑑賞は専門家などが書いたものやインターネット上のものを一方的に享受すればよいものと捉えている側面があり、表現技法や細かな語句の工夫、自身が鑑賞や批評することなどについて深く考えることができていないということがわかる。そこで、「歌合」という設定を行うことで、書籍やインターネットなどで他者の批評や鑑賞を参照しただけでは、実際には自身の中に和歌のよさを評価する力が身につけていないことを自覚させ、「歌合」の勝負や判詞を考える流れの中で単純に技法や知識、思いを読みとるだけではその一首全体を味わっているとはいえないこと、学習した知識を使って考えながら味わうことで和歌の鑑賞の注目点や味わい方がより深まることを自覚させ、和歌についてもっと知りたい、もっと触れてみたいという意欲をもたせることが大切だと考える。
- 指導にあたっては、「お気に入りの一首をみつけよう」という目標を示した上で、和歌に関する知識を深め、よりよい和歌とは何かという和歌への関心・意欲を高めるために、和歌の内容や表現の工夫などを理解した上で批評していく中で、和歌の鑑賞文を読むことを通して、言葉選びや、表現技法、細やかな言葉へのこだわりを工夫できるよう授業を展開していく。学習の流れを次のように設定した。

まず、第一次に「和歌の世界」「古今和歌集 仮名序」を通して和歌の歴史や表現などの基本的な知識を学び、「小倉百人一首」競技かるたを体験することで、和歌という文学に親しむ活動を行う。

次に、第二次の段階では、第2、3時に「君待つと一万葉・古今・新古今」で和歌の鑑賞を行う作業を通して、和歌の表現技法や工夫、詠まれた背景や思いを読みとる活動を行う。また、第3時後半では、「歌合」について学び、実際にクイズ形式で体験してみる活動を行う。さらに、第4時において、班員と協力して「歌合」判を考える活動、自分の選んだ数首の和歌に判をつけてみる活動を通して、自身の韻文への理解、和歌に関する知識や和歌を鑑賞する際に大切なことなどを学べるようにする。

最後に、自分の選んだ和歌について鑑賞文を書く活動を行い、さらにこれまでの学習を通して和歌について学んだ上で「小倉百人一首」競技かるたの活動をすることで、自身の和歌に関する知識や理解が深まったことを確認できるようにする。

3 単元の目標

- 歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しめるようにする。〔知識及び技能 (3)ア〕
- 和歌の構成や論理の展開、表現の仕方について評価できるようにする。〔思考力、判断力、表現力等 (C)ウ〕
- 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする態度を育てる。〔主体的に学習に取り組む態度〕

4 評価規準

知識・技能	① 和歌の基本的な知識について理解を深めている。 ② 和歌の表現技法とその効果、内容について理解を深めている。
思考・判断・表現	③ 「読むこと」において、和歌の詠まれた背景や内容について、考えを伝えたり、まとめたりしている。
主体的に学習に取り組む態度	④ 自身の選んだ和歌について、学習した知識を活用し、優れている点や文学的価値を評価しようとしている。

5 単元計画(5時間)

次	時	学習活動・内容	指導のねらい	ICT	評価		
					知技	思	主
一	1	○和歌の知識を学ぶ。 ・教材を読み、和歌の知識の確認をする。 ・「小倉百人一首」競技かるたをやってみる。	和歌に興味をもって次時以降の学習に取り組めるように、基礎知識をおさえた後に競技かるたを行い、興味をもたせる。	PCを大型テレビに接続し、「仮名序」本文と、「小倉百人一首」の読み上げを流す。	①		
二	2	○実際の和歌で学ぶ。 ・表現技法や内容を学ぶ。 ・「万葉集」、「古今和歌集」の和歌を鑑賞する。 ○歌合について知る。	和歌の表現技法などを理解できるように、「君待つと一万葉・古今・新古今」の解説を読みながら確認させる。		②		
	3	・「新古今和歌集」の和歌を鑑賞する。 ・「歌合」のクイズを行う。	活動の目的や内容、方法を確認できるように、「歌合」判詞の例と教師の作ったモデルを提示し、クイズ形式で学習を行う。	タブレットで教師のモデルやクイズを例示する。	②		
	4 本時	○「歌合」判をつけてみる。 ・学習で得た知識や視点を使って、判(勝敗と判詞)を考える。 ・自分の選んだ百人一首の三首に判をつける。	全員に取り組みが理解できるように、共有ノートを使って班で活動させる。 考えたことを判詞として表現しやすいうように、判詞の型を用意しておく。	共有ノートを使って、協同で作業を行う。		③	
三	5	○和歌の鑑賞文を書く。 ・前時の判詞をもとに選んだ和歌の鑑賞文を書く。 ・「小倉百人一首」競技かるたを行う。	考えたことが書きやすいように、鑑賞文の型を用意する。 和歌に対する興味や親近感をもった上で、「小倉百人一首」競技かるたに取り組ませる。	PCを大型テレビに接続し、「小倉百人一首」の読み上げを流す。		③	④

6 本時 令和6年 11月 19日(火) 第二次3時(4 / 5) 第5校時 第3学年1組教室

(1) 本時の指導観

前時まで、和歌の基礎知識や、教科書の和歌を読む活動を通して和歌に関する技法や表現などを学習した。第1時に「小倉百人一首」競技かるたを行っているが、その時点では和歌に関してあまり知識をもっていなかったため、取組自体は楽しんでいたものの、和歌の文学的な価値や、一首一首の和歌に対する興味や関心は低かった。和歌に関してより多くの知識を学んだことで、生徒はよりよい和歌とはなんなのかを知りたいと思っているものと考えられる。そこで本時では、第2、3時で学習した和歌の知識を使って、教師の示した和歌やについてアドバイスをし合ったり、推敲したりしながら、よりよい作品にしようとする取り組みができることに主眼をおく。

はじめに、つかむ段階では前時までの和歌の学習や「歌合」の紹介を振り返り、本時のめあてを設定する。その上で、前時まで「君待つと一万葉・古今・新古今」を通して学習した、和歌の基礎知識や表現の工夫、内容などを確認し、その知識を用いて和歌を批評してみたいという意欲をもたせる。

次に、ひろげる段階では、教師の示す和歌に関して、班で共有ノートを用いて話し合う活動を行う。その後、全体で各班の考えを共有し、他者の考えに触れることで自身の読みや注目点、考えなどをさらに強化する機会を作る。さらに、自身が事前に選んだ「小倉百人一首」の三首について批評することで自分の一番気に入った和歌を決定させる。

最後に、本時の活動を思い返し、それぞれの和歌を比較・批評する際に表現の工夫や思いを理解していれば和歌の鑑賞がより深いものになるということを確認し、学習の振り返りを行う。

(2) 本時の主眼

和歌に関する学習で得た知識等を用いて比較・批評する活動を通して、判詞を書くことができる。

(3) 準備

《生徒》タブレット 教科書 ワークシート 筆記用具 《教師》和歌に関わる書籍 国語辞典 古語辞典

(4) 本時の学習過程

過程	めあて・まとめ 学習活動・学習内容	指導上の留意点(○)・評価(◇)	形態	配時
つかむ	1 前時までの振り返りを行い、本時のめあてを確認する。	○学習の見通しをもたせるために、学習計画をもとに前時までの学習を振り返る。その知識を用いて和歌の判(勝負、判詞)をしようという意識をもつように学習計画を確認する場を設定する。	一斉	3
	2 和歌の知識について確認する。 ・枕詞・序詞・掛詞・縁語 ・切れ字・倒置・比喻表現 ・体言止め・擬人法・対句 など			5
めあて: 歌合の判を実際につけてみよう。				
ひろげる	3 教師の示す和歌についての判(勝負、判詞)を考える。 (1) 四人班で考える。 ・和歌の工夫や内容 ・より心が動く和歌と理由 (2) 全体で班の意見を共有する。	○活動の目的や内容、方法が理解できるように、共有ノートを点検しながら、机間指導を行う。 ○目的に合った活動ができるように、判詞の型のワークシートを配付する。 ○机間指導を行い、作業が難しい生徒には適宜助言を行う。 ◇学習プリント【思】 ワークシートの記述から、表現の工夫や思いなどを意識して判詞を書いているかを評価する。 A 和歌の技法を理解し、比較・批評して判を付けている。【理解】【深まり】 B 一番気に入った和歌を決め、班を付けている。【意欲】	4人班 ↓ 全体 個人	15
	4 自分の選んだ三首の「小倉百人一首」の和歌について、「歌合」判をつける。 ・和歌の工夫や内容 ・より心が動く和歌と理由			20
まとめる	6 学習を振り返り、次時の確認を行う。 ・振り返りの記入	○次の学習への見通しをもてるように、振り返りの内容を共有する場を設定する。	個人・一斉	7
○和歌の技法について理解している。【理解】 ○自分の選んだ和歌に判をつけ、一番気に入った和歌を決めようとしている。【意欲】 ○比較して批評することで、鑑賞の力を伸ばすことができている。【深まり】				
まとめ: 表現の工夫や思いに注目して和歌を比較し批評することで、判詞を書くことができた。				

3年生 国語 振り返りシート

3年()組()番 氏名()

単元6

いにしえの心を受け継ぐ

学習前 (この単元名からどのようなことを学びたい、または身につけたいと思いますか)

学習後 (「意欲」「理解」「深まり」のうち、この単元で得た学びについて書きましょう)

意欲
理解
深まり



月 日 限目 <この1時間で行ったこと、わからなかったこと、興味を持ったことなど>

月 日 限目 <この1時間でわかったこと、わからなかったこと、興味を持ったことなど>

月 日 限目 <この1時間で行ったこと、わからなかったこと、興味を持ったことなど>

月 日 限目 <この1時間でわかったこと、わからなかったこと、興味を持ったことなど>

月 日 限目 <この1時間で行ったこと、わからなかったこと、興味を持ったことなど>

月 日 限目 <この1時間でわかったこと、わからなかったこと、興味を持ったことなど>

月 日 限目 <この1時間で行ったこと、わからなかったこと、興味を持ったことなど>

月 日 限目 <この1時間でわかったこと、わからなかったこと、興味を持ったことなど>

月 日 限目 <この1時間で行ったこと、わからなかったこと、興味を持ったことなど>

月 日 限目 <この1時間でわかったこと、わからなかったこと、興味を持ったことなど>

月 日 限目 <この1時間で行ったこと、わからなかったこと、興味を持ったことなど>

月 日 限目 <この1時間でわかったこと、わからなかったこと、興味を持ったことなど>

月 日 限目 <この1時間で行ったこと、わからなかったこと、興味を持ったことなど>

月 日 限目 <この1時間でわかったこと、わからなかったこと、興味を持ったことなど>

月 日 限目 <この1時間で行ったこと、わからなかったこと、興味を持ったことなど>

月 日 限目 <この1時間でわかったこと、わからなかったこと、興味を持ったことなど>

1 単元名「比例と反比例」

2 指導観

- 関数という言葉は、17世紀にドイツの数学者ライプニッツによって用いられたことが始まりである。さらに、スイスの数学者オイラーがいくつかの変数と定数を用いて表した式を関数と定義し今日に至る。私たちの身の回りには、量り売りや道のり・速さ・所要時間の関係など、ともなって変化する数量関係があり、それらの多くは関数関係とみなして考えることができる事象である。ある関係を関数関係として捉え直し、その関係性や法則を追究することで、その変化と対応に着目して考えていくことができ、それらは科学や経済の発展に貢献してきた。また、自由落下する物体の運動や自動車の制動距離などにおける運動の法則で関数関係が用いられているように、物理分野の発展にも大きく影響を与えている。関数関係を用いて考察することのよさは、今後どのように変化していくかの未来を予想できることや、表・式・グラフを考察の根拠として用いて、わかりやすく説明することができるなどがあげられる。本単元で扱う比例や反比例の学習は、日常生活において数量の関係を探究する基礎になる。また、身のまわりの具体的な事象を考察し、表現する力を伸ばすとともに、子どもたちが既存の知識を、社会にいかそうとすることにもつながり、意義深いと考える。

本単元では、ともなって変化する2つの数量を取り出して、その変化と対応に着目する。そして、変数や比例定数が負の数の場合まで拡張し、その関係を表・式・グラフで相互に関連付けながら、問題を解決したり、発展的に考えたりすることで、関数関係を用いて課題を考察する力を養うことができる。比例と反比例の学習は、中学校2年生での一次関数、中学校3年生での2乗に比例する関数の学習の基板となり、それ以降の関数領域の学習にもつながる。

- 小学校では、4年生までに伴って変わる二つの数量の関係を調べたり、変化の様子を折れ線グラフに表したりしている。5年生においては、表を用いて、伴って変わる二つの数量の関係を考察し、簡単な場合について比例の関係があることを知ることを学習している。6年生においては、比例の関係について理解し、これを用いて問題を解決することを学習している。本学級の子ども38名を対象に行った事前調査問題では、比例や反比例の知識・理解を問う問題の正答率は84%、技能に関して、グラフをかく問題は79%、既存の知識を用いて比例や反比例の関係から数量を求める問題の正答率は52%であった。また、4月に行われた学力診断テストでは、A層が35%、B層が25%と半数以上を占めている。事前アンケートで算数が好きと答えた理由を聞くと、「計算問題を解くことが楽しい」「自分の考えを話すことが楽しい」と答えた。一方で、算数が好きではないと答えた子どもに理由を聞くと、「応用問題がわからない」「言葉で説明することが難しい」「普段の生活で使わないと思う」と答え、苦手な印象をもっている子どもがいる。

このことから、基本的な知識や技能は概ね習得していることがわかる。しかし、既存の知識を用いて、筋道立てて考えて課題を解決したり、課題の解決に用いた考え方に含まれる数学のよさを認識したりすることに課題があると考える。また、感覚的には理解していても、自分の考えを整理して簡潔、明瞭に表現することにも課題がある。

- 本単元では、ともなって変わる2つの数量についての学習に関心をもち、既存の知識や技能を用い、筋道立てて考え、数量関係を表・式・グラフを使って考えることの明瞭性、能率性などのよさを認識し、発展的に考えるとともに、数学のよさを実感することができるようにする。そのために、次のような手だてをとる。
 - ・第一次では、比例と反比例の学習に見通しをたてることできるように、ともなって変わる2つの数量の関係を比較・分類・関連付けする場を設定する。
 - ・第二次では、既存の学習内容を活用し、数理を構成するとともに、数量関係を表・式・グラフを使って考えることの明瞭性、能率性などのよさを認識することができるようにするために、課題解決の過程を振り返り、交流する活動を設定する。
 - ・第三次では、発展的に考えることができるように、身の回りの関数関係を考察して新たな関係を見出したり、既存の数理と関連付けて振り返りシートをまとめたりする活動を設定する。

3 単元の目標

ともなって変わる2つの数量についての学習に関心をもち、既存の知識や技能を用い、筋道立てて考え、数量関係を表・式・グラフを使って考えることの明瞭性、能率性などのよさを認識し、発展的に考えるとともに、数学のよさを実感することができるようにする。

4 評価規準

知識・技能	①比例や反比例の意味や特徴を理解することができる。 ②条件から比例や反比例の式を求めることができる。 ③座標を読んだり、表したりすることができる。 ④比例や反比例の関係を表、式、グラフで表現し、その特徴を読み取ることができる。
思考・判断・表現	⑤筋道立てて課題を解決することができる。 ⑥比例や反比例を利用して、問題解決することのよさを認識することができる。 ⑦既存の知識から発展的に考えることができる。
主体的に学習に取り組む態度	⑧比例と反比例の学習に他者と協働しながら課題を解決しようとするすることができる。 ⑨単元の学習に対して見通しをもって粘り強く考えようとするすることができる。 ⑩比例や反比例の関係をもとに発展的な問題を考察しようとするすることができる。

5 単元計画(13時間)

次	時	学習活動・内容	指導のねらい	ICT	評価		
					知技	思	主
一	1	○日常にあるともなって変わる数量を考える。 ・量り売り・公共交通機関の運賃 ・変化の様子から関係を考察	比例と反比例の学習に見通しをもつことができるように、ともなって変わる2数の関係を比較・分類・関連付けする活動を設定する。	(あ)			⑧ ⑨
二	1	○比例の関係を表す表や式の特徴を調べる。 ・ $y=ax$ ・比例定数 ・範囲を0や負の数に広げる	比例の変化や特徴を見出すことができるように、 x と y の関係で考察したことを交流する活動を設定する。		①		
	2	○比例の式の求め方を考える。 ・表から求める・グラフから求める ・条件から求める	条件から式を求めることができるように、一般化した比例の式を確認する場を設定する。	(い)	②		
	1	○比例のグラフのかき方や特徴を考える。 ・座標・ x 軸・ y 軸 座標平面 ・比例のグラフ・原点を通る直線	平面上に位置した表し方を見出すために、教室における座席の位置をその場所にいる人に伝える活動を設定する。	(あ)	③ ④		
	1	○反比例の関係を表す表や式の特徴を調べる。 ・ $y=\frac{a}{x}$ ・ $xy=a$	反比例の変化や特徴を見出すことができるように、 x と y の関係で考察したことを交流する活動を設定する。		①		
	2	○反比例の式の求め方を考える。 ・表から求める・グラフから求める ・条件から求める	条件から式を求めることができるように、既習の内容と関連付けて解決方法を検討する場を設定する。	(い)	②		
	1	○反比例のグラフのかき方や特徴を考える。 ・グラフのかき方・双曲線	反比例のグラフの特徴を捉えることができるように、反比例の式を満たす座標を多くとり、正確なグラフについて考察する活動を設定する。	(あ)	③ ④		
	1	○比例や反比例の関係からおおよその数を求める。 ・プルタブの数・関数とみなして考える	比例や反比例の考え方を利用するよさを認識することができるように、課題解決の過程を振り返り、交流する活動を設定する。			⑤	
	1	○視力検査表にないランドルト環について考え、オリジナルの視力検査を作成する。 ・視力とランドルト環の直径の関係 ・視力と対象と距離の関係 ・10m先のボールペンの芯(1.5mm)が見えると視力は2.0	比例や反比例の関係を活用することができるように、数量の変化の様子を検討する場を設定する。 発展的に考えることができるように、身の回りのもので視力検査を代用することができないか考察する課題を設定する。	(あ)		⑤ ⑥	⑩
三	1	○どの車の方がお得かを表・式・グラフを用いて説明する。 ・使用年数とガソリン代の関係	2つの数量関係を視覚的に捉えることができるように、関係を表やグラフを用いて表して説明する活動を設定する。	(あ)		⑥	⑩
	1	○単元の学習を振り返る。 ・単元の学習をもとに振り返りシートを記入	自身の伸びを自覚することができるように、単元全体における学習内容を整理する場を設定する。	(あ)			⑧ ⑩

*活用する学習支援ソフト:(あ)ロイロノート(画像撮影、提出箱) (い)ミライシード・ドリルパーク

6 本時 令和6年11月19日(火)第2次10時(11/13) 第四校時 第1学年3組教室

(1) 本時の指導観

前時まで、日常にあるともなって変化する数量関係を調べ、比例や反比例の関係を表・式・グラフの特徴、関数関係を用いておおよその数を求めることについて学習している。

そこで本時では、視力検査表のランドルト環に係わる数量と視力との関係を考察し、ともなって変化する2つの数量を関数関係とみなし、関数関係を用いて考えることの明瞭性や能率性のよさを認識できるようにすることをねらいとしている。そのために、次のような手だてをとる。

・課題解決の見通しを立てることができるように、校内の視力検査で使用するランドルト環の表を提示し、ともなって変化する数量を確認する場を設定する。また、振り返りシートから課題解決に関連する学習内容を見いだす活動を設定する。

・筋道立てて課題を考察することができるように、自らの考えを表・式・グラフの根拠をもって他者に説明する場を設定する。また、関数の考え方をを用いて課題を解決することができるように、身の回りのもので視力を測定できるか考える活動を設定する。

・関数関係を用いて考えることのよさを認識することができるように、振り返りシートに具体例やさらに学びたいことを入れて記述する場を設定する。

(2) 本時の主眼

視力検査に係わる数量関係を考察する活動を通して、関数関係を用いて考えることの明瞭性のよさを認識することができる。

(3) 準備

学習プリント 視力検査表 生徒用タブレット 教師用パソコン

(4) 本時の学習過程

過程	めあて・まとめ 学習活動・学習内容	指導上の留意点(○)・評価(◇)	形態	配時																
つかむ	<p>1 本時の学習内容を振り返る。</p> <p>(1) ランドルト環について知る。 ○これは何でしょう? ※5m用の視力検査表 ・視力を測定するもの ・ランドルト環</p> <p>(2) 課題を確認する。</p> <p>緒方先生は視力検査表では視力を測定することができないそうです。緒方先生の視力を測定するには、どうすればいいでしょうか。</p> <p>(3) ランドルト環の関係を整理する。 ○ランドルト環までの距離5mは変えない。 ○視力を測定するために変化するものは? ・ランドルト環の大きさ・隙間の大きさ ○視力検査表を作るために必要な値は何か? ・隙間の大きさ・ランドルト環の直径</p> <p>(4) めあてを確認する</p> <p>めあて:0.1よりも低い視力を測定するための視力検査を作成しよう</p> <p>(5) 課題解決の見通しをたてる。 ・視力とランドルト環の大きさに関係がありそう。 ・視力と隙間の大きさに関係がありそう。 ・ランドルト環の直径や隙間は実測して、関数と見なして考えればいい。</p>	<p>○本時の学習に関心をもつことができるように、校内の視力検査で使用されるランドルト環の表を提示する。</p> <p>○問題の状況を把握することができるように、0.1の視力では測定できない場合、どうすれば測定することができるか考える。</p> <p>○本時の方向性を確認することができるように、ともなって変化する数量は何かを確認する場を設定する。また、0.05や0.01の視力を測ることができればよいことを確認する。</p> <p>○課題解決の見通しをたてることができるように、振り返りシートを活用して前時までの学習を想起する場を設定する。</p> <p>○多様な考え方にふれることができるように、課題解決の方法を全体で整理する場を設定する。</p>	<p>全体</p> <p>2</p> <p>2</p> <p>個人 全体</p> <p>5</p> <p>全体</p> <p>2</p> <p>個人 全体</p> <p>4</p>	<p>2</p> <p>4</p> <p>2</p> <p>4</p>																
	ひろげる	<p>2 課題を解決する。</p> <p>(1) 視力検査表をもとに、視力とランドルト環の関係を個人で考える。</p> <p>表 視力 x とランドルト環の直径 ymm の関係</p> <table border="1"> <tr> <td>x</td> <td>0.1</td> <td>0.2</td> <td>0.3</td> <td>0.4</td> <td>0.5</td> <td>...</td> <td>1.0</td> </tr> <tr> <td>y</td> <td>75</td> <td>37.5</td> <td>25</td> <td>18.45</td> <td>15</td> <td></td> <td>7.5</td> </tr> </table> <p>式 $y = \frac{7.5}{x}$</p> <p>グラフ 反比例の関係になっていると考えられる。 ○0.05の直径は150mm、0.01の直径は750mm</p> <p>(2) 考え方を学級全体で交流する。</p> <p>・視力 x とランドルト環の直径を ymm としてその関係を式で表すと $y = \frac{7.5}{x}$ となり、反比例の関係だった。そこから、視力 0.05 のランドルト環の直径は150mmになることがわかった。</p> <p>(3) 小集団でオリジナルの視力検査を考える。 ・5m 先のボールペンの芯(1.5mm)が見えると視力は1.0。視力と測定距離は比例している。</p>	x	0.1	0.2	0.3	0.4	0.5	...	1.0	y	75	37.5	25	18.45	15		7.5	<p>○関数の関係に着目することができるように、視力検査表のランドルト環を実測した場合、誤差が生じることを助言する。</p> <p>○根拠を明らかにすることができるように、関係を表・式・グラフのいずれかでまとめるように確認する。</p> <p>◇筋道立てて課題を考察することができたか(学習プリント)</p> <p>○筋道立てて課題を考察することができるように、自らの考えを表・式・グラフの根拠をもって他者に説明する場を設定する。</p> <p>○関数の考え方をを用いて課題を解決することができるように、身の回りのもので視力を測定できるか考える活動を設定する。また、小集団で考えを交流する場を設定する。</p>	<p>個人 全体</p> <p>15</p> <p>全体</p> <p>5</p> <p>小集団</p> <p>5</p>
x	0.1	0.2	0.3	0.4	0.5	...	1.0													
y	75	37.5	25	18.45	15		7.5													
まとめる	<p>3 学習内容を振り返る。</p> <p>(1) 本時のまとめを確認する。</p> <p>まとめ:反比例など関数の関係を見つければ、身の回りのわからない数量も求めることができる。</p> <p>(2) 振り返りシートに学習内容を記述する。</p> <p>・視力とランドルト環の直径は反比例になっていた。関数の関係に気づければ、様々な数量を求めることができる。【明瞭】 ・いつでもどこでも使えるオリジナルの視力検査表を作りたい。【発展】</p>	<p>○関数関係を用いて考えることのよさを認識することができるように、振り返りシートに具体例やさらに学びたいことを入れて記述する場を設定する。</p> <p>○自己の学習を整理し、関数関係で考えるよさの認識を広げることができるように、振り返りの内容を他者と交流する場を設定する。</p> <p>◇関数関係を用いて考えることのよさを認識することができたか(振り返りシート)</p>	<p>全体</p> <p>3</p> <p>個人 全体</p> <p>7</p>	<p>3</p> <p>7</p>																

<振り返りシート>

第()章 単元名() 年()組()番()

学習前の単元のイメージ

学習前と比べて新たにわかったこと、学習後の単元のイメージ

数学学習プリント No ()

○今日の授業の内容がよくわかりましたか？
 1:大抵よくわかった 2:わかった 3:よくわかるがまだ 4:全くわからない

○今日の授業の記録
 (わかったこと、聞けなかったことの中で、授業で一番大切だと思ったことを書いてみよう。)

○今日の授業の振り返り

数学学習プリント No ()

○今日の授業の内容がよくわかりましたか？
 1:大抵よくわかった 2:わかった 3:よくわかるがまだ 4:全くわからない

○今日の授業の記録
 (わかったこと、聞けなかったことの中で、授業で一番大切だと思ったことを書いてみよう。)

○今日の授業の振り返り

数学学習プリント No ()

○今日の授業の内容がよくわかりましたか？
 1:大抵よくわかった 2:わかった 3:よくわかるがまだ 4:全くわからない

○今日の授業の記録
 (わかったこと、聞けなかったことの中で、授業で一番大切だと思ったことを書いてみよう。)

○今日の授業の振り返り

数学学習プリント No ()

○今日の授業の内容がよくわかりましたか？
 1:大抵よくわかった 2:わかった 3:よくわかるがまだ 4:全くわからない

○今日の授業の記録
 (わかったこと、聞けなかったことの中で、授業で一番大切だと思ったことを書いてみよう。)

○今日の授業の振り返り

1 単元名 第3章 武家政権の展開と世界の動き

第2節 戦乱から全国統一へ(教科書 p.102~111『帝国書院』)

2 指導観

○ 本単元は、中学校学習指導要領(社会)歴史的分野の内容「第2章 社会科の目標及び内容」、「第2節 各分野の目標及び内容」「2 歴史分野の内容」「(2)内容」「(3)近世の日本」「(ア)世界の動きと統一事業」に含まれる単元である。我が国の近世の特色を、世界の動きとの関連を踏まえて課題を追究したり解決したりする活動を通して学習することをねらいとしている。この時期の我が国は、信長・秀吉の統一事業及び江戸幕府による諸政策を通して生まれた安定した社会が、その後長く続いた。外国との関わりでは、ヨーロッパ文化の伝来や東南アジア各地への日本人の渡航など対外関係が活発な時期から、外国との交渉が限定された時期へと移っていった。その中で産業や交通が著しく発達し、町人文化や各地方の生活文化が形成されるとともに、社会の変動の中で幕府の政治が行き詰まっていった。その中で、安土桃山時代は30年間と短い。信長・秀吉と全国統一を目指し、実現するまでの政策がさまざま行われたり、現在へ残る重要な文化が誕生したりした時代である。信長・秀吉のイメージをもつ人が多い一方で、それを現代と結びつける人は少ない。しかし、私たちの生活の原点がいくつもあるといわれている。例えば、労働者が体力を維持するために1日3食の食生活が習慣化したことや仕事の合間に素早く食事ができるように蕎麦屋が誕生したといわれている。茶の湯や三味線などは現代へと続く重要な文化であり、学ぶには大変意義がある。

○ 本学級の生徒(36名)は学習意欲が高く、級友とも大変仲がよく、一人一人が授業に前向きに取り組む様子が見られる。また、多くの生徒が課題に真摯に向き合い、分からないことがあると周りの級友に聞くなどして解決しようとする意志が見られる。さらに、授業に気持ちが向いていない生徒に対しては周りの生徒が声をかけるなどを行う姿がある。その一方で、学習の定着は課題があり、定期考査や課題テストの結果は芳しくない。特に、論理的思考を用いて自らの言葉を文章にすることを苦手としている。事前調査による「社会科の学習において課題を自ら進んで解決する学習は得意ですか?」の問いに対して約85%の生徒が、「自分の考えを適切な用語を用いて書き表すことは得意ですか?」の問いに対して90%の生徒がそれぞれ「苦手である」と回答していることからこうした現状は明らかとなっている。一方で、複数の歴史的人物から興味・関心ある人物を選択させる事前調査においては40%の生徒が織田信長と豊臣秀吉の両者もしくはどちらかを選択している。また、「タブレットなどICT機器を用いた学習は好きですか?」の問いに対して約40%の生徒が「好きである」を回答している。

このような現状を踏まえ、本単元の学習において生徒の多くが高い興味・関心をもつ織田信長と豊臣秀吉の統一事業を中心に取りあげることや、他者との交流やICT機器の効果的活用によって自らの考えを吟味し学習課題を解決する活動を仕組むことは大変意義深い。

○ 本単元の指導にあたっては、単元を貫く問を設定し、ICTの活用や振り返り活動を充実させることによって学ぶことをねらいとする。そのために、まず、現在まで学習した内容を確認しながら、学習を進める。学んだ知識に関連性をもたせ、最後の授業で学んだ知識をつなげ、説明ができるようになることを生徒に認識させる。その後、本次の全体像を、資料を観察しながら想像させ、疑問を持たせることで「単元を貫く問い」を設定する。次に、信長や秀吉が行った統一事業について学習する。その際、足利家が統制していた室町時代、商業や宗教への考え方、農民統制の政策の違いに気づかせ比較させる。そして、桃山文化、わびさびの文化、南蛮文化という多様な文化を学習することで、豪華さや幽玄さ、既存の文化との異色さを感じさせ、時代の背景や庶民の気質などを具体的に感じるようにさせる。最後は、本時のまとめを行い、全体を大観できるようにし、既習内容と繋げ、今後の学習にも繋がる振り返りを行いたい。そのために、まずは個人でまとめその後、周りの級友と意見交換を行い、付加修正を行う。そして、提出をする。その際、ロイロノートを活用し、学級全体でまとめが共有できるように行う。

3 単元の目標

- ・ 安土桃山時代の登場人物や出来事を把握し、年表にまとめさせる。【知識・技能】
- ・ 信長・秀吉のリーダー性の強い人物が登場した中で、多様な文化が誕生した背景を考えさせ、自らの言葉で表現させる。【思考力・判断力・表現力等】
- ・ 毎時間の終了時に行う振り返りの記述において、具体性のある感想をもち、次授業に繋がるような疑問をもつことができる。【主体的に取り組む態度】

4 評価規準

知識	①信長と秀吉の統一事業が当時の日本社会の変革に大きな影響を与えたことを理解することができる。
技能	②信長と秀吉の統一事業に関する資料を収集し、情報を適切に選択して読み取ったり、まとめたりすることができる。
思考・判断・表現	③信長と秀吉の統一事業とヨーロッパ人との関わりが、近世日本の社会のしくみを作る原動力となった理由を考えることができる。 ④統一政権の諸政策が中世社会への変化を導き、日本の政治や文化に与えた影響を考察するとともに、海外貿易の許容とキリスト教の禁止という相反する政策に気づき、事象を相互に関連付けるなどして、近世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現する。
主体的に学習に取り組む態度	⑤信長と秀吉の統一事業に関する政策とヨーロッパ人の来航との関わりに、関心を持ち、調べようとする。 ⑥安土桃山時代に生まれた歌舞伎や茶の湯などの日本の伝統文化が、現代社会に受け継がれてきたことの意義について、主体的に追究しようとしている。

5 単元計画(4時間)

次	時	学習活動・内容	指導のねらい	ICT	評価		
					知技	思	主
一	1	1 これまでに学んだ内容を確認する。 ・ 室町時代 ・ 戦国時代 ・ 織田信長 ・ 豊臣秀吉 2 本単元の「単元を貫く問い」を設定する。 ・ 安土桃山時代の庶民は幸せな暮らしをしていたのか考えよう。	・ これまでの歴史学習の既習内容を確認し、これからの行われる授業の見通しをもたせる。 ・ 安土桃山時代全体を大観させ、課題を見つけさせる。その際、信長の商業への注力やキリスト教の容認など社会の変化に注目させて問いを設定させる。	(b) (c) (あ)	①		⑤
二	1	3 戦国時代の終わりから安土桃山時代への移り変わりを学習する。 (1) 信長は戦国時代からどのような政策を打ち出し、社会を変化させたのか考える。 ・ 楽市楽座 ・ キリスト教の容認 (2) 秀吉に天下がうつり、社会がどのように変化したのか秀吉が行った政策を学習する。 ・ 太閤検地 ・ 刀狩り ・ キリスト教の禁止	・ 戦国時代はどのようにして終わったのか信長と秀吉が全国統一を果たしていった経緯をもとに理解させる。 ・ 信長の政策が日本の社会をどのように変えたかについて、政治、社会、経済のそれぞれの面から具体的な事例を基に考察させ、中世社会と異なっていることを表現させる。 ・ 検地と刀狩によって中世までとは異なる社会が作られたことを、兵農分離に着目して理解させる。 ・ 秀吉のキリスト教政策の揺れを、ポルトガルやスペインによる布教と海外貿易のもたらす利益とのバランスから考察させ、表現させる。	(c) (あ)	①	③	
三	1	4 桃山文化が豪壮な文化であることを学び、室町文化と比較する。	・ 桃山文化が壮大で豪華な文化であった理由を、時代の変化や文化の担い手などに着目して考察させ、適切に表現させる。 ・ パワーポイントを利用し、室町文化と桃山文化を視覚的に比較しやすくする。	(c) (あ)	②	③ ④	
四	1	5 安土桃山時代について、まとめを行い、本時を自分の言葉で表現できるようにする。	・ 振り返りシートを活用しながら、まとめさせる。 ・ ロイロノートを活用し、安土桃山時代の特徴を表現できるようにまとめ、共有をさせる。	(c) (あ)		④	⑥

*活用するコンテンツ等:(a)NHK for School (b)デジタル教科書 (c)パワーポイント

*活用する学習支援ソフト:(あ)ロイロノート(動画撮影、提出箱) (い)ロイロノート(動画編集) (う)Kahoot! (え)ミライシード・ドリルパーク

(1) 本時の指導観

本時では安土・桃山時代のまとめを自分の言葉で表現させることをねらいとする。そのためにまず、前時までの授業の振り返りを行い、キーワードとなる言葉を整理させる。次に今まで学習した内容を個人で考え文章にまとめる。この際、振り返りシートを見直すことで前時までの授業のつながりに気づかせる。さらに、グループを作り、生徒同士で情報を共有し、班員からアドバイスをうけ、自分の文章の付加修正を行わせる。その際、政治・経済・文化の面からどのような理由が考えられているか教師が評価を行う。最後に、文章の完成を目指し、ロイロノートに提出し、学級全体で意見共有を行い級友の意見を参考にし、多角的な意見を学ぶ。

(2) 本時の主眼

安土桃山時代のまとめを庶民の生活から振り返ることで、信長、秀吉の政策のつながりや成果について理解し、自分の言葉でまとめることができる。

(3) 準備

教科書(『社会科 中学生の歴史 〈日本の歩みと世界の動き〉』帝国書院)・タブレット(ロイロノート)・振り返りシート

(4) 本時の学習過程

過程	めあて・まとめ	学習活動・学習内容	指導上の留意点(○)・評価(◇)	形態	配時
つかむ	1	本時のめあてを確認する。		一斉	5
	めあて:安土桃山時代を振り返りシートを活用しながら、学習課題に対する自分の考えをまとめよう。				
ひろげる	2	学習課題を確認する。	○ 大型提示装置を活用し、時間を短縮させる。		
	3	今まで学習した内容を振り返る。 ・ 信長により戦で初めて鉄砲が使用された。 ・ 楽市・楽座により城下町の商工業は活発になった。 ・ 刀狩により百姓が刀ややりを持つことが禁止された。 ・ 太閤検地により規格が統一され、石高に応じた年貢を納めることになった。	○ 生徒の今後の意見を左右させないため、どちらかに偏った発言は控える。	一斉	5
	4	個人で学習課題の答えをまとめる。 (生徒の予想) 〈庶民の生活は幸せだった派〉 ・ 信長が楽市・楽座を開いたことにより、庶民や商人は活発に活動していたから。 ・ 秀吉の太閤検地により、年貢を納める際、ズルをする人がいなくなったから。 〈庶民の生活は苦しかった派〉 ・ 秀吉の太閤検地により、納税がより厳しくなったから。 ・ 桃山文化は豪華な作品が多いので、将軍たちが百姓たちから巻き上げた年貢で豪遊していたのではないかと思うから。	○ 短時間で振り返りを行い、今後の活動の時間に支障が出ないようにする。 ○ 机間巡視を行い、支援が必要な生徒に声掛けを行う。 ○ 学習した用語を黒板に掲示し、確認しながらまとめができるように支援を行う。 ○ 交流する前に相手に伝わりやすい説明の方法と記載してほしい用語を提示する。 ◇ 自分の意見をもち(幸せだった or 苦しかった)、整合性のとれる文章にまとめることができている。その際、複数の要因を合わせて説明できている。(ロイロノート) A:自分の意見が明確であること。かつ、政治・経済・文化の3つの視点からそれぞれ理由を、関連性をもたせながら説明できている。 B:自分の意見が明確であること。かつ、政治・経済・文化のどれかの視点から説明できている。	個人	10
	5	班で意見交換を行う。 ・ 自分は(幸せ or 苦しい)どちらの意見かを明確にする。 ・ 班員の意見をもとに、新しい意見があれば参考にする。		班	10
まとめる	6	個人で付加・修正を行う。 ・ 班員の意見を参考に付加・修正を行う。 ・ 複数の理由を挙げて、関連付けながら意見を作成する。 ・ 完成したものをロイロノートの提出箱に提出する。			
	7	学習課題の意見を共有する。 ・ (例) 庶民の暮らしは、キリスト教の統制や武将だけ華やかな生活をしてお金を使っていたので触れていたの、苦しかったのではないかと思う。	○ ロイロノートを用いて学習課題を学級全体で共有する。	個人 一斉	5
まとめる	8	本時の振り返りを行う。		個人	5
◇ 信長・秀吉が行った政策について理解できた【事実】 ◇ 戦国大名や豪商から誕生した豪華な文化や庶民の今を楽しむ文化が発展したのは戦国時代を経験したことから繋がっていることに気づくことができた【関連】 ◇ 室町時代から続く幽玄な文化は江戸へそして現代へと続く重要な文化だと気づくことができた【価値】					

《 社会科 授業振り返りシート 》

第【 】部 第【 】章 第【 】節 【 】年【 】組【 】番 氏名【 】

学習前の単元のイメージを書きましょう。どのようなことを学習すると思いますか？

学習前と比べて新たに分かったことや学習後の単元のイメージはどのように変化しましたか？

感想・質問なども含めて書きましょう。

社会学習プリント No. ()

【 】

○今日の授業の内容はよく分かりましたか？

1 大変よく分かった 2 分かった
3 あまり分からなかった 4 全然分からなかった

○今日の授業の振り返り

社会学習プリント No. ()

【 】

○今日の授業の内容はよく分かりましたか？

1 大変よく分かった 2 分かった
3 あまり分からなかった 4 全然分からなかった

○今日の授業の振り返り

社会学習プリント No. ()

【 】

○今日の授業の内容はよく分かりましたか？

1 大変よく分かった 2 分かった
3 あまり分からなかった 4 全然分からなかった

○今日の授業の振り返り

社会学習プリント No. ()

【 】

○今日の授業の内容はよく分かりましたか？

1 大変よく分かった 2 分かった
3 あまり分からなかった 4 全然分からなかった

○今日の授業の振り返り

社会学習プリント No. ()

【 】

○今日の授業の内容はよく分かりましたか？

1 大変よく分かった 2 分かった
3 あまり分からなかった 4 全然分からなかった

○今日の授業の振り返り

社会学習プリント No. ()

【 】

○今日の授業の内容はよく分かりましたか？

1 大変よく分かった 2 分かった
3 あまり分からなかった 4 全然分からなかった

○今日の授業の振り返り

社会学習プリント No. ()

【 】

○今日の授業の内容はよく分かりましたか？

1 大変よく分かった 2 分かった
3 あまり分からなかった 4 全然分からなかった

○今日の授業の振り返り

社会学習プリント No. ()

【 】

○今日の授業の内容はよく分かりましたか？

1 大変よく分かった 2 分かった
3 あまり分からなかった 4 全然分からなかった

○今日の授業の振り返り

1 単元名 「回路と電流・電圧」

2 指導観

○ 私たちの生活において、電気は欠かすことができない。家電製品はもちろん、現在はオール電化住宅などが普及し、電磁調理器、電気温水器が一般的に普及している。また、エコカーの開発が進み、ハイブリッド車や電気自動車への注目も高い。またこうした電気の需要が高まり、発電においても二酸化炭素の削減をめざし、太陽光発電や風力発電など発電方法が注目を集めている。こうした時代背景からも電流について学習することは大変意義があり、私たちの生活に密着したものであると言える。

本単元「回路と電流・電圧」では、電気回路についての観察、実験を通して、電流と電圧との関係を理解させるとともに、電流についての初歩的な見方や考え方を養うことをねらう。そのために、電流、電圧それぞれの性質や規則性を理解させるとともに、これらの観察・実験を通して回路の作成の仕方、電流計などの扱い方に習熟させる。また、生徒一人一人の科学的な思考力の実態に即し、電流と電圧の関係を見いださせる。このように電流についての初歩的な見方や考え方を身につけさせることは、自分たちが日頃使っている電気をどのように発電しているかという理解や、エネルギー問題、環境問題を考えることにつながり、大変意義深いものであると考える。

○ 生徒は、小学校では第3学年で、電気を通すつなぎ方と通さないつなぎ方があること、第4学年で、乾電池の数やつなぎ方を変えると豆電球の明るさやモーターの回り方が変わるについて学習している。本学級の生徒32名に対し、事前にテストを行ったところ、知識を問われる問題では正答率が82%と高く、一方で思考力を問われる問題や規則性をもとに答えを導き出す問題では、正答率が20%台になる結果となった。このことから一問一答形式の答えを導き出せる生徒は多いが、実験のデータを整理・思考したり、法則性を導き出したりする力については不十分な生徒が多い。また、事前アンケートでは、「①観察、実験に積極的に取り組むことができる」、「②実験結果を表やグラフ、文章でまとめることができる」、「③まとめた内容を他の人に説明することができる」、「④実験結果を生かして身の回りの現象を説明することができる」という内容でアンケートを行った。「思う」や「やや思う」を選んだ生徒の割合は、①が89%であった。しかし、②以降の質問に関しては徐々に減っていき、②は48%、③は31%、④の質問に関しては8%であった。これらのことから、観察や実験に対しては積極的に行い、語句や用語の習得はできるが、それを上手に伝えたり、生かして自然現象を説明したりすることが苦手なことがわかる。そのため、振り返りとICTを効果的に活用して実験結果をまとめることで、学習内容や自分の考えを説明させる活動を行いやすくなると考える。

○ 本単元では、理科の見方・考え方を働かせ、電流とその利用についての観察・実験などを行い、回路と電流・電圧について日常生活や社会と関連付けながら理解させるとともに、それらの観察・実験などに関する技能を身に付けさせ、思考力、判断力、表現力等を育成することが主なねらいとする。そこで、次のような手立てをとる。

第一次では、小学校での既習事項を想起するとともに電流の働きを思考し、回路の作り方を身に付けさせるために、基礎的な回路を利用して実験する場を設定する。また、電気用図記号を使い、作図の練習を行わせることで、次時以降の学習をスムーズに行うことができるようにする。

第二次においては、電流計、電圧計を用い直列回路と並列回路の電流と電圧を測定し、それぞれの回路での規則性を見出す場面を設定する。また、電圧を上げた際の電流の値の変化を測定し電圧と電流の間には、比例の関係があること見出す場面を設定する。その際、効率よく結果をグラフ化し、共有するために Excel シートを共有してグラフの作成を行わせる場面を設定する。また、学習した電圧と電流の関係（オームの法則）を使用し、計算に取り組むとともに、回路に複数の抵抗をつないだ時の回路全体の抵抗を求める場面を設定する。

第三次においては、電力と熱量との実験では、生徒が主体的に学習に取り組むことができるようにするために、生徒に実験方法を考える活動を設定する。また、電力や電力量を日常生活と関連付けて考えることができるようにするために、実際の電気機器の使用する電力を知る場面や、その電気機器を使用した際の電力量を求める場面を設定する。

3 単元の目標

- 回路や電流・電圧についての基本的な概念や原理・法則を理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。(知識・技能)
- 電流に関する現象について、見通しをもって解決する方法を考え、実験を行うことができるとともに、実験の結果から電流と電圧、電流の働きの規則性や関係性を見出し表現している。(思考力・判断力・表現力等)
- 電流と回路の学習を通して、日常生活と関連付けて考え、生活や楽手に生かそうとする態度、実験の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を身に付ける。(主体的に学習に取り組む態度)

4 評価規準

知識・技能	①回路や電流・電圧などの名称や基本的な概念や原理・法則を理解している。 ②科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。
思考・判断・表現	③電流に関する現象について、見通しをもって解決する方法を考え、実験を行うことができる。 ④実験の結果から電流と電圧、電流の働きの規則性や関係性を見出し表現している。
主体的に学習に取り組む態度	⑤実験を行う前の予想や振り返りシートの学習前のイメージを記入することができる。 ⑥実験の内容をもとに考察・振り返りを記入することができる。

5 単元計画(9時間)

次	時	学習活動・内容	指導のねらい	ICT	評価		
					知技	思	主
一	5	1 回路を流れる電流と電圧の大きさを測定し関係を見出す。 (1)電流計の操作方法について知る。 ・電流計の使い方 (2)直列回路と並列回路の各部分に流れる電流の大きさを測定する。 ・直列回路と並列回路に流れる電流の規則性 (3)直列回路と並列回路の各部分に流れる電流の関係を式で表す。 ・電流をIを用いて関係を表す。 (4)電圧計の操作方法について知る。 ・電圧計の使い方 (5)直列回路と並列回路の各部分に加わる電圧の大きさを測定する。 ・直列回路と並列回路に各部に加わる電圧の規則性 ・電圧をアルファベットのVを使って表す。	○電流計の操作方法を習得できるように簡素な回路を使い、電流計をつなぎ電流値を測定する場を設定する。 ○各班の想定結果を並べて表示して比較できるように、ロイロノートを使用し結果を共有する場を設定する。 ○電圧計の値の読み方を習得できるように、練習する活動を設定する。 ○電圧計の使用方法を習得できるように、映像で使用方法を確認したのち実験を行うようにする。	(a) (b) (あ)	① ②	③ ④	⑥
	3	2 電流の大きさと電圧の大きさの関係を調べる。 (1)電圧の大きさを変化させたときの電流の大きさの関係をグラフ化し調べる ・回路を流れる電流の大きさは、電圧の大きさに比例する。	○生徒が課題を見出すことができるように、電圧を上げる際に電流はどのようになるか考える活動を設定する。 ○実験結果を正確にグラフ化したものを共有し比較できるように、共有のエクセルシートを使用し値を入力してグラフを作成する活動を設定する。	(a) (b) (え)	①		⑥
	1	(2)オームの法則について知る。 ・オームの法則 6 抵抗のつなぎ方と回路全体の抵抗の大きさはどのようになるか考える。 (1)抵抗のつなぎ方によって、回路全体の抵抗の値が変化することを計算して導き出す。 ・物質の太さと抵抗の大きさ	○オームの法則を使った計算問題を解くことができるように、練習問題を行う場を設定する。	(a) (b)	①	④	

*活用するコンテンツ等:(a)NHK for School (b)デジタル教科書

*活用する学習支援ソフト:(あ)ロイロノート(動画撮影、提出箱) (い)ロイロノート(動画編集) (う)Kahoot!
(え)ミライシード・ドリルパーク

6 本時 令和6年11月19日(火)第二次6時(6/9) 第 校時 第2理科室

(1) 本時の指導観

前時までには、生徒たちは回路図から回路を作成する技能、電流計、電圧計の使い方を習得している。また、直列回路、並列回路を流れる電流の関係、また回路の各部に加わる電圧の関係について学習をしている。

本時では、抵抗の異なる二本の電熱線に電圧を変えながら加え、電流値がどのように変化するかを測定し、電圧と電流との間には比例の関係があることを見出して理解することをねらいとする。(オームの法則)そのために次のような手立てをとる。

つかむ段階では、電圧と電流の関係を思考しやすくするために、電圧を大きくする手だての例として乾電池を例に挙げて思考できる場を設定する。

次に広げる段階では、生徒たちがグラフ作成を容易にするために、また作成したグラフが共有しやすくするために Excel シートを共同編集しグラフを作成する活動を設定する。

最後にまとめる段階では、内容の定着を図るために振り返りシートを記入し、本時の学習の内容を明らかにする。

(2) 本時の主眼

抵抗の異なる二本の電熱線に電圧を変えながら加え、電流値がどのように変化するかを測定し、電圧と電流との間には比例の関係があることを見出し理解することができる。

(3) 準備

学習プリント、電熱線(抵抗の違うもの)、電源装置、導線、スイッチ、電流計、電圧計、タブレット、大型提示装置

(4) 本時の学習過程

過程	めあて・まとめ 学習活動・学習内容	指導上の留意点(○)・評価(◇)	形態	配時
つかむ	1 前時までの学習内容と本時のめあてをつかむ。 (1) 直列回路、並列回路での電流、電圧の関係について復習を行う。 ・直列回路と並列回路での電流と電圧の関係 (2) 加える電圧が大きくなると、回路を流れる電流はどのようになるか予想を立てる。 ・電流の値は大きくなる (3) 本時のめあてをつかむ。	○前時までの学習内容を想起しやすくするために、振り返りシートを参考にしても発表してもよいことを助言する。 ○めあてをつかみやすくするために、乾電池の数と、豆電球の明るさの関係为例にあげ、電圧と電流の関係について考える場面を設定する。	一斉 個 ↓ 一斉	3 3 2
	めあて:電圧を変化させたとき、電流がどのように変化するか調べよう。			
ひろげる	2 実験方法を確認し、実験を行う。 3 結果をまとめる。 (1) 学習プリントに表に結果を記入する。 (2) 結果をグラフ化し、共有する。 ・電流と電圧との間には比例の関係がある。	○比例の関係をわかりやすくするために、電圧を1.5V、3.0V、4.5V、6.0V、7.5V で変化させる。 ○作成したグラフを拡大提示装置で共有するために各班に一台タブレットを用意し、Excel を共同編集しグラフを作成させる。 ○グラフの作成を効率よく行うために Excel で作成する。	小集団 小集団 小集団 ↓ 一斉 個	15 2 5 5
	4 考察を記入する。 ・同じ電圧でも電熱線が違くと電流の流れ方には違いがある。	◇電流と電圧の間には比例の関係があること、同じ電圧でも電熱線によって流れる電流の大きさが違うことを記述できているかを評価する。 A:流れる電流の大きさは電圧に比例し、電熱線によって流れる電流の大きさには違いがある。 B:流れる電流の大きさは電圧に比例する。		
まとめる	5 本時の学習を振り返る。 (1) 本時の学習のまとめを確認する	○本時の学習内容を明らかにできるように、振り返りシートに記入する活動を設定する。	一斉	8
	まとめ:回路に流れる電流の大きさは加える電圧に比例し、同じ電圧でも電熱線によって電流の大きさが変化する。			
	(2) 振り返りシートを記入する。	○流れる電流の大きさは、電圧によって変化する。【簡潔】 ○流れる電流の大きさは、電圧と電熱線の種類によって変化する【統合】 ○電熱線以外にも電流の流れる値が変化するか調べたい【発展】	個	7

《 授業振り返りシート 》

単元【 】章【 】年【 】組【 】番 氏名【 】

感想・質問など

学習前と比べて新たに分かったことや学習後の章のイメージはどのようなように変化しましたか？

学習前のこの章のイメージを書きましよう。どのようなことを学習すると思いますか？

理科学習プリント①
【 】
○今日の授業の記録
(分かったこと、分からなかったこと、授業で一番大切だと思ったことをまよめよう)

○今日の授業の振り返り

理科学習プリント②
【 】
○今日の授業の記録
(分かったこと、分からなかったこと、授業で一番大切だと思ったことをまよめよう)

○今日の授業の振り返り

理科学習プリント③
【 】
○今日の授業の記録
(分かったこと、分からなかったこと、授業で一番大切だと思ったことをまよめよう)

○今日の授業の振り返り

理科学習プリント④
【 】
○今日の授業の記録
(分かったこと、分からなかったこと、授業で一番大切だと思ったことをまよめよう)

○今日の授業の振り返り

理科学習プリント⑤
【 】
○今日の授業の記録
(分かったこと、分からなかったこと、授業で一番大切だと思ったことをまよめよう)

○今日の授業の振り返り

理科学習プリント⑥
【 】
○今日の授業の記録
(分かったこと、分からなかったこと、授業で一番大切だと思ったことをまよめよう)

○今日の授業の振り返り

理科学習プリント⑦
【 】
○今日の授業の記録
(分かったこと、分からなかったこと、授業で一番大切だと思ったことをまよめよう)

○今日の授業の振り返り

理科学習プリント⑧
【 】
○今日の授業の記録
(分かったこと、分からなかったこと、授業で一番大切だと思ったことをまよめよう)

○今日の授業の振り返り

1 単元名 Unit 5 A Legacy for Peace (NEW HORIZON English Course 3)

2 指導観

- 今年はオリンピックが開催され、生徒たちは、様々な国の人々の活躍をテレビやニュースを通して知ることができた。大野城市に在住する外国人も年々増加傾向にあるため、生徒が外国の方に人や物について詳しく説明する機会は今後ますます増えてくると思われる。本単元は、教科書の登場人物であるジョシュが、インドの民族独立運動の最高指導者であるガンディーをクラス全体に紹介している場面から始まっている。新出文法としては、関係代名詞の主格と目的格を学習する。これまで前置詞句による名詞の後置修飾や現在分詞、過去分詞による後置修飾は学習している。単元のタスクとして、学級でALTの先生を含めて、自分があこがれる人物についてプレゼンテーションをする場を設定する。この活動を通して生徒は、人や物について情報を加える必然性が生まれ、相手によりよく伝える表現技法を工夫するため、相手意識をもってコミュニケーションする力を育成する上で大変意義深い。
- 本学級の生徒は学習意欲が高く、真面目に取り組む生徒が多い。一方で、クラス全体での発表や堂々と自分の考えを発表することを恥ずかしがったり、間違えを恐れて声が小さくなってしまったりする生徒も多い。これまでUnit1では、経験したことにもとづいて、相手に合ったプランを伝えるという『書くこと』の活動を行った。また、Unit2ではずっと好きなことや取り組んできたことについてALTに伝える『話す(やりとり)』の活動を行った。Unit3では、Unit2の内容を膨らませ、「内容」「英語らしさ」「掲示物」「声」「スピード」「視線」「表情」「身振り」を意識して班内で活動報告をした。Unit4では、即興でいろいろな物を説明する帯活動を入れて、既習の単語や文法を使い、相手に伝える練習を重ねてきた。
アンケートでは、4技能5領域で苦手なものは、『話すこと(発表)』が最も多かった。その理由は、「内容を意識して原稿を書くことが大変」「原稿は調べて書けるがその後覚えるのが難しい」といった理由が多かった。このことは、長い文を考えることをあきらめて、教科書や翻訳機能に頼ることが多いため、難しい単語を使いすぎたり、未習の文法を丸暗記しようとしていたりすることが原因と考える。そこで、本単元では、関係代名詞を学んだ際、単語の意味を簡単な単語で説明する活動を取り入れ、言い換えができるようにする。そうすることで、原稿を読むのではなく、相手意識をもって、メモを参考に発表できるようになると考える。
- 本単元は、インドの民族独立運動の最高指導者であるガンディーを扱った内容である。言語材料としては関係代名詞の主格と目的格用法が扱われている。これまで、前置詞句による後置修飾や、不定詞による後置修飾、現在分詞や過去分詞による後置修飾などを学習してきたが、それらの知識も振り返りながら関係代名詞の学習に取り組ませたい。そのようにして既習言語材料と関連させながら人や物を具体的に説明する方法について理解させるとともに、それらを用いてあこがれの人物を紹介できるようにする。そこで、第一次では、あこがれの人物を紹介するための構想を練らせる。その際、教師のデモンストレーションを見ることで本単元のゴールをイメージしやすくする。また、既習言語材料のみで一旦あこがれの人物を紹介する活動を行う。第二次では関係代名詞の意味や用法を理解させ、定着を図る。その際、習った文法を用いてあこがれの人物について1時間につき1文書かせるというスモールステップを踏むことで、生徒の負担感を軽減する。第三次では全体の前で自信をもって発表できるように、ペアやグループで発表する練習の場を設定する。その際、ロイロの録画機能を使って、改善点を自分自身で把握できるようにする。

3 単元の目標

- 後置修飾、関係代名詞の主格・目的格の用法を正しく理解し、それらを用いてあこがれの人物について話すことができる。【知識及び技能】
- あこがれの人物を紹介するために、その人についての詳しい情報を整理し、聞き手に伝わるように工夫して、発表することができる。【思考力、判断力、表現力等】
- あこがれの人物を紹介するために、その人についての詳しい情報を整理して加え、聞き手に分かりやすく伝える工夫をすることができる。【学びに向かう力、人間性等】

4 評価規準

知識	① 名詞を修飾する文と、関係代名詞 who, that, which(主格・目的語)を用いた文の形・意味・用法を理解している。
技能	② 既習の語句や文法を使って、あこがれの人物について伝える技能を身につけている。 ③ 名詞を修飾する文と、関係代名詞 who, that, which(主格・目的語)を用いた文の理解をもとに、言葉に詳しい情報を加えて話す技能を身につけている。
思考・判断・表現	④ あこがれの人物を紹介するために、その人についての詳しい情報を内容ごとにまとめて発表している。 ⑤ 相手意識をもち、掲示資料やジェスチャー、表情等を意識して聞き手に伝わるような工夫をして発表している。
主体的に学習に取り組む態度	⑥ あこがれの人物を紹介するために、その人についての詳しい情報を内容ごとにまとめて発表しようとしている。 ⑦ 相手意識をもち、掲示資料やジェスチャー、表情等を意識して聞き手に伝わるような工夫をして発表しようとしている。

5 単元計画（8時間）

次	時	学習活動・内容	指導のねらい	ICT	評価		
					知技	思	主
一	1	○ 本単元の活動の流れをつかむ。 (1)教師のあこがれの人物についてのプレゼンを見る。(P73 本文参照) (2)紹介する物について構想を練る。	○本単元のゴールをイメージしやすくするために、教師がデモンストレーションを行う。	(b)	②		
	2	○ 紹介する人物について即興で説明する。 (1)前時に作ったメモだけで即興的にグループで発表する。 (2)うまくいかなかった表現をピックアップする。 (3)原稿を作る。 (4)本時の段階での動画を撮る。	○現段階での自分自身の話す力を確認するために、即興でやり取りをする場を設定する。 ○客観的に自分の発表を振り返るために、毎時間動画を撮る場を設定する。	(あ)	②		
二	3	○ 後置修飾を学習する。 (1)文法の説明を聞く。 (2)kahoot!の問題作成と回答をする。 ・ A shelter is a place people stay in during a disaster. (3)本時の段階での動画を撮る。	○後置修飾の語順に慣れるために、kahoot!を活用し問題作成と回答をする。	(b) (あ) (う)	①		
	4	○ 関係代名詞（主格）を学習する。 (1)文法の説明を聞く。 (2)あこがれの人物を紹介する文を書く。 ・ This is a person who always works hard. (3)本時の段階での動画を撮っておく。	○関係代名詞の価値に気づけるようにあこがれの人物を2文と1文で比較して提示する。 ○最終的な原稿で、関係代名詞が使えるように、あこがれの人物を用いて文を作る。	(b) (あ) (う)	①		
	5	○ P.76.77 の読解 (1)本文を読んで、問題を解く。 (2)関係代名詞が使われている文やあこがれの人物を紹介する際に使えるような表現を見つける。 (3)原稿に取り入れ、本時の段階での動画を撮る。	○あこがれの人物を紹介する表現を増やすために、本文を読み表現を見つける場を設定する。	(b) (あ) (お)	③		
	6	○ 関係代名詞の振り返りをする。 (1)関係代名詞の主格と目的格の使い方の違いを確認する。 (2)原稿を練り直す。 ・ The person that I respect is my grandmother. (3)本時の段階での動画を撮る。	○関係代名詞の使い分けができるように、本文から例文を取り出し、関係代名詞の主格と目的格の違いを問う。 ○発表の原稿を練ったり、練習したりする場を設定する。	(b) (あ) (い) (お)	③	⑤	
三	7 本時	○ あこがれの人物について班で練習をする。 (1)班で発表の練習をし、互いにアドバイスを する。 (2)アドバイスをもとに原稿を調整し、発表の 練習をする。 ・ 強調する語の把握 ・ 理解を促すスピード ・ 理解を確認する間や投げかけ ・ 効果的な資料の提示 ・ 相手を引き込む表情	○英文を各自で改善できるように、タブレットを用いて、班員の英文を共有できるようにする。 ○自分たちで改善点を見つけ出せるように、映像のチェックポイントを示す。	(あ) (い) (お)		⑤	⑦
	8	○全体で発表会をする。	○聞き手も目的意識をもって聴くために、挙手制で質問する場を設定する。			④ ⑤	⑥ ⑦

*活用するコンテンツ等：(a)NHK for School (b)教科書

*活用する学習支援ソフト：(あ)ロイロノート（動画撮影、提出箱） (い)ロイロノート（動画編集、資料提示）

(う)kahoot! (え)ミライシード・ドリルパーク (お)Ginger

(1) 本時の指導観

前時までに生徒はあこがれの人物についての原稿を書き、自分のパフォーマンスを振り返ることができるように動画に撮ってきた。本時は、単元の最後の練習時間として、班内で発表して、より相手意識をもって文章構成を考えたり、発表の仕方を考えたりできるように班でアドバイスを伝え合う。また、班員は内容に対する質問をする。この活動を行うことにより、あこがれの人物の情報をさらに詳しく伝えることができるようになったり、発想を広げたり情報を整理したりして相手意識をもって表現できるようにする。そのために次のような手だてをとる。

- ・様々な文化や表現を思い出せるように、毎時間書いているリフレクションシートや学級内で原稿を共有しているロイロノートの共有ノートなどを参考にしよう促す。
- ・班で発表練習をする際に、評価する聞き手と内容に質問するアドバイスを聞きながら、訂正、改善するために、ロイロノートでリーフレットを共有する。

(2) 本時の主眼

目標を決めてアドバイスを活動を通して、あこがれの人物を紹介するために、その人についての詳しい情報を整理して加え、よりよく伝わる発表をすることができる。

(3) 準備

リフレクションシート(通常)、リフレクションシート(動画用)、タブレット(ロイロノート、Teams イマーシブリーダー)、練習用評価表

(4) 本時の学習過程

過程	めあて・まとめ 学習活動・学習内容	指導上の留意点(○)・評価(◇)	形態	配時
つかむ	1 発表のポイントを確認する。 ・内容 ・英語らしさ ・掲示物 ・声 ・スピード ・視線 ・表情 ・身ぶり 2 今までの自分の発表を振り返り、本時の目標を決める。 ・スピード：もっとゆっくり言う。 ・発音：“discrimination”の発音を確認する。	○ 個人の振り返りの時間を十分に確保できるように、発表において意識したいことは、キーワードで示す。 ○ 自分の発表のこれまでの変化がすぐにわかるように、リフレクションシート(動画用)は、数字に○を囲む様式にしておく。	一斉 個	2 8
	めあて：聞き手が内容を理解しやすいような発表にするために、クラスメイトからのアドバイスを活かして発表のコツを掴もう。			
ひろげる	3 班でアドバイスをする。 ・3人班になり、Aが発表する、Bロイロノートで動画を撮り評価する、Cが質問する。3分間で行う。役割を変えて3分。全役割が終わったら、班員を変えてもう一度練習を行う。 4 アドバイスをもとに練習する。 ・内容を変えたり、追加したりする。 ・Team sのイマーシブリーダーで発音の確認をする。	○ Cは内容についての質問ができるように、原稿を見ながら発表を聞く。 ○ 2回目の練習に入る前に、発表のポイント以外に意識したいことを確認する。 ・強調する語の把握 ・理解を促すスピード ・理解を確認する間や投げかけ ・効果的な資料の提示 ・相手を引き込む表情	班 個	20 10
	5 本時の学習を振り返る。 (1) 最後にもう一度録画する。 (2) 一番始めの発表と比較してできるようになったことや発表のコツをまとめる。	◇学習プリントの記述【主】 前時の発表動画と本時の発表動画を比較して改善されているか。 A：発表のポイントを3つ以上意識して発表しようとしている。 B：発表のポイントを1、2つ意識して発表しようとしている。	個	10
まとめる	○ 提示物を顔の写真と支持者と運動をしている写真の2種類使うようにした。【工夫】 ○ エピソードが分かりにくかったから、細かく調べて追加した。【意欲】 ○ ~さんの間の取り方が上手だったので真似したい。【協働を通じた気づき】			
	まとめ：強調する語を意識して練習しておくとおと人物像を掴みやすくなる。 聞き手に質問をすることで、興味を引くことができる。			

Unit 5 English Reflection Sheet

Class: No. _____
Name: _____

◇ **Goal (単元目標)**
聞き手に紹介する人物の特徴が伝わるように様々な表現方法を駆使することができる。
表現力(感情, 強弱, 目線, ジェスチャー)、言語知識(関係代名詞)
◇ **学習テーマ**
ALTの先生たちは、日本の中学生は誰にあげられているのか知っているのか、詳しい情報を加えたり、理由を述べたりしながら紹介してください。

My Goal

回	月/日	わかったこと、つかんだこと、次にチャレンジすること	印
1	/	◇表現力【54321】 ◇言語知識、スピーチ内容【54321】 ◇スピーチ原稿【54321】 ◇Key Word	チャレンジ度 %
2	/	◇表現力【54321】 ◇言語知識、スピーチ内容【54321】 ◇スピーチ原稿【54321】 ◇Key Word	チャレンジ度 %
3	/	◇表現力【54321】 ◇言語知識、スピーチ内容【54321】 ◇スピーチ原稿【54321】 ◇Key Word	チャレンジ度 %
4	/	◇表現力【54321】 ◇言語知識、スピーチ内容【54321】 ◇スピーチ原稿【54321】 ◇Key Word	チャレンジ度 %
5	/	◇表現力【54321】 ◇言語知識、スピーチ内容【54321】 ◇スピーチ原稿【54321】 ◇Key Word	チャレンジ度 %
6	/	◇表現力【54321】 ◇言語知識、スピーチ内容【54321】 ◇スピーチ原稿【54321】 ◇Key Word	チャレンジ度 %

回	月/日	わかったこと、つかんだこと、次にチャレンジすること	印
7	/	◇表現力【54321】 ◇言語知識、スピーチ内容【54321】 ◇スピーチ原稿【54321】 ◇Key Word	チャレンジ度 %
8	/	◇表現力【54321】 ◇言語知識、スピーチ内容【54321】 ◇スピーチ原稿【54321】 ◇Key Word	チャレンジ度 %
9	/	◇表現力【54321】 ◇言語知識、スピーチ内容【54321】 ◇スピーチ原稿【54321】 ◇Key Word	チャレンジ度 %
10	/	◇表現力【54321】 ◇言語知識、スピーチ内容【54321】 ◇スピーチ原稿【54321】 ◇Key Word	チャレンジ度 %

Final Reflection

◇ Lesson5の活動をそれぞれの項目で振り返りましょう。できるよになったこと、わかったこと、がんばったこと、チャレンジしたことをまとめましょう。

◇ 表現力(発表、感情を込めた発話など)

◇ 言語知識、スピーチ内容(文法面など)

◇ 次につなげること

- 1 題材名 「イメージをもたらしている映画音楽の秘密を探ろう」
映画「ジョーズ」から「ジョーズのテーマ」より (J. ウィリアムズ作曲)

2 指導観

- 映画館やテレビで観る映画やドラマには、そのストーリーをイメージし、分かりやすく伝えるためにその場面にふさわしい音楽が流れる。それらの音楽を通して、その情景をイメージしたり主人公の気持ちになったりしながら味わい楽しんでいる。また、生徒たちはスマートフォンや SNS の発達で、いつでもどこでも身近にそれらの音楽を聴き、楽しむことができる。しかし、生徒たちに、好きになった音楽のどんなところが好きで聴いているのかその理由を聞くと、「なんとなく」とか「気持ちがあうから」「落ち着くから」と答えている。これは、音楽そのものを表面的にはとらえているが、音楽を味わうところまで感じ取っていないことがうかがえる。音楽を形づくっている要素やその働きとイメージの関わりに着目させて音楽を聴くことができれば、より音楽を深く感じ取り、音楽のよさを実感できるのではないかと考える。

本題材は、映画「ジョーズ」を教材とした【B鑑賞：(1)ア(ア)イ(ア)】「ジョーズのテーマ」から思い浮かんだ情景や場面から、音の重なり方や反復、変化など構成上の特徴と関連付けられていることについて、映画の中の場面描写や登場人物の心理などとの密接な結びつきを捉えていく題材である。本題材を通して、生徒に曲想と音楽の構造との関わりを理解させるとともに、その根拠を自分なりに考え、音楽の美しさやよさを味わって聴き、それらを自分の言葉で適切に説明したり表現したりしながら、音楽のよさや美しさを味わうことをねらいとしている。

音楽を形づくっている要素を手がかりとし、様々な音楽の工夫を理解することにより、鑑賞だけでなく、歌唱表現や器楽、創作分野においても、表現したいイメージをもって音楽のよさや美しさを味わうとともに、生涯にわたって音楽に親しんでいく態度につなげていきたいと考える。また、今回の授業においては、ICT を効果的に活用することで、他者の音楽観に気づいたり、ともに批評したりと自分だけでは気づけなかった新たな音楽のよさに気づくことにもつながっていくと考える。

- 本学級の生徒は、音楽の授業の始まる5分前には全員音楽室に来て、歌を歌おうとする等、音楽への興味関心が高い生徒が多い。授業全般においては大変元気がよく、発表も活発で自分が感じたことを全体場で表現し、自分から学ぼうとする意欲が高い生徒が多い。また、他者の意見を傾聴し、受容でき、純粋に音楽に親しもうとする土台が十分にできている。先月行われた、合唱コンクールでも、自分の声を使って音取り、パートでの音色の統一やパートの役割を理解している。全体でのハーモニーづくりや表現の工夫といった過程を積み重ねながら自分たちらしい合唱にしようと練習に取り組んできた。1学期に学習した鑑賞「魔王」の授業においては、特に、「速さ」「強弱」については、自分なりにそれらの要素の特徴と場面のイメージを結びつけながら鑑賞する様子が見られた。しかし、音の重なり方や音の高低、ハーモニー、リズム等の他の要素も含め、要素そのものを単独で聴き取って音楽を捉えようとする傾向が、発表やロイロノートの記録から87%いることがわかった。そのため、これまでの授業において、様々な要素が組み合わさって音楽の構造が成り立っているところまで学びを深めるにはまだ至っていないことがわかる。そこで、本題材の学びを通して、音楽の構造によって生み出される曲想を感じ取らせ、音楽を多面的な視点から捉え、音楽のよさを情景や場面と結びつけながら味わうことのできる生徒たちを育てることを目指したいと考える。
- 指導にあたっては、まず夏の効果音を徐々に重ねていきながら聴くことで、一人一人に曲のイメージをもたせ、全体交流することで、音が重なっていくことで音楽から受けるイメージの広がりが出てくることを感じさせたい。その際、なぜそのイメージが広がるのかを考えさせ、そこには音楽を形づくっている要素が関わっていることに気づかせたい。次に、音楽の諸要素のうち3つ(強弱、音の高低、音色)が楽曲に関わっていることに生徒自らが気づくようにする。それらの要素から自分が感じたことを表現させる。また、様々な映画音楽と比較鑑賞させることで、それぞれの曲の特徴を聴き取り、それを支えている音楽の要素やその働きの変化の違いに気づかせ、感じ取らせるようにしたい。さらに、個人で考えた意見をロイロノートで共有し合い、小グループで互いに聴き合いながら、全体で交流することにより、音楽的要素を組み合わせながら言語表現力を養うとともに、互いの考えをつなげあうことで音楽のよさを味わうなど音楽をより深く味わわせたい。最後に、「ジョーズのテーマ」も含めた映画音楽の中から一つ選択し、よさや面白さを紹介する文を音楽の諸要素とむすびつけながら本題材の学習のまとめとして締めくくりたい。

3 題材の目標

- 強弱、音の高低、音色について、表現したいイメージと関わらせて理解するとともに、本題材のよさを紹介するために必要な音楽を形づくっている要素とその働きを組み合わせながら、自分なりの言葉で説明することができる。
【知識・技能】
- 音楽からイメージする情景や気分を感じ取り、その背景にあるものが、「強弱」や「音の高低」、「音色」などの音楽の諸要素に関わっていることをつかみ、作曲者の工夫を考えることができる。
【思考力・判断力・表現力等】
- 音楽の構造上の違いによって生み出される雰囲気や気分の変化に関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。
【主体的に学習に取り組む態度】

4 評価規準

知識・技能	①ジョーズのテーマ、ヘドウィグのテーマ、スターウォーズのメインテーマの曲想と音楽の構造との関わりについて理解している。
思考・判断・表現	②強弱、音の高低、音色等を知覚し、それらの働きが互いに生み出す雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したことの関わりについて考えている。 ③楽曲の対する評価とその根拠について自分なりに考え、音楽のよさを味わうことができる。
主体的に学習に取り組む態度	④音楽を聴いて思い浮かぶイメージと音楽の特徴との関わりに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

5 題材計画(3時間)

次	時	学習活動・内容	指導のねらい	ICT	評価		
					知 技	思	主
一	1	○映画音楽の中から「ジョーズのテーマ」を聴く。 ・思い浮かんだ情景や場面と、音色や旋律、強弱との関連性	○映画音楽に入る前に、夏の効果音をひとつずつ重ねていきながら、音楽への感じ方の広がりを実感する場を設定する。 ○Xチャートにまとめた全員のイメージを、大型画面に映し、共有できるようにする。	(あ) (い)	①	②	④
二	1	○別の映画音楽を一つ選択し、同じ曲を選んだグループで、思い浮かんだ情景や場面を捉える。 ・音色や旋律、強弱との関連性	○様々な映画音楽との比較鑑賞で、さまざまな音楽を形づくっている要素と関連付けていることをキンキングツールにまとめることで確認できるようにする。	(あ) (い)	①	②	④
三	1	○選択した映画音楽の魅力について、紹介文を作成する。 ・情景を音で効果的に表す映画音楽の魅力	○選んだ映画音楽について、イメージや情景と様々な音楽を形づくっている要素の働きや音楽の構造によって生み出される曲想との関わりについて、自分自身で捉え、自分の言葉で紹介できるようにする。	(あ)		② ③	④

*活用するコンテンツ等:(a)NHK for School

*活用する学習支援ソフト:(あ)ロイロノート(動画撮影、提出箱) (い)ロイロノート(動画編集) (う)Kahoot!
(え)ミライシード・ドリルパーク

6 本時 令和6年11月19日(火)第2次時(2/3) 第5校時 音楽室

(1) 本時の指導観

前時までに生徒は、効果音を手掛かりに、音のもつイメージへの広がり方について気づき、そこから映画音楽「ジョーズのテーマ」から浮かんだイメージを共有している。そして、知覚したことと感受したこととの関わりについて自ら気づき捉えることができるように、音楽を形づくっている要素についてそれぞれ知覚し、キンキングツールにまとめることで、イメージと音楽とが関わっていることを理解している。

そこで、本時では、「ジョーズのテーマ」を含めたいくつかの映画音楽を比較鑑賞し、それらの音楽のよさや美しさを味わい自分の言葉でまとめる学習に取り組む。この学習を通して、それらの映画のもつ情景やストーリー、場面が、さまざまな音楽を形づくっている要素によってどのように表現されているのかを、自分で気づき、それらの音楽のよさや美しさを味わい自分の言葉でまとめることをねらいとする。

そのためにまず、映画音楽から思い浮かんだ情景や場面が音楽のどんな特徴と関わっているのかについて、気づいたことをまとめ、意見を交流し、前時の振り返りから学習を始めたい。また、音楽から感じ取るイメージや情景が、様々な音楽を形づくっている要素とどのように関連しているかを問い、めあてにつなげる。ここでは、映画音楽「ハリーポッターと賢者の石」から「ヘドウィグのテーマ」、「スターウォーズ」から「メインテーマ」を比較鑑賞することで、浮かんだイメージや情景を共有する。次に、それぞれの映画音楽のもつ情景やストーリー、場面が、その変化によって、音楽を形づくっている要素の働きや音楽の構造によって生み出される曲想に大きな違いがあることを感じ取らせたい。ここでは、個人の考えを大切に、見方・考え方を広げるために、ロイロノートの共有ノートを活用し、小グループによる意見交流を行わせたい。さらに、映画音楽では、その映画のもつ情景やストーリー、場面が違っていても、音楽を形づくっている要素と音楽の構造が深く関わり、その音楽の魅力を醸し出していることに気づき、深く音楽を味わわせ、自分の言葉で説明できるようにしたい。ここでは、自分が興味をもった映画音楽を1曲選択し、深く捉えさせることで、「ジョーズのテーマ」との比較がしやすいようにしたい。最後に、選択した映画音楽の工夫を探るために、同じ曲を選択した同士で集まり、ロイロノートでまとめたことについて共有し、次時の選んだ映画音楽のよさを伝える紹介文作成への意欲へとつなげたい。

(2) 本時の主眼

様々な映画音楽との比較鑑賞で、その映画音楽のもつイメージやストーリー、場面によって、さまざまな音楽を形づくっている要素と音楽の構造と曲想との関わりに変化があることに気づき、音楽のよさを自分の言葉で説明することができる。

【思考力・判断力・表現力】

(3) 準備

大型提示装置、教師用パソコン、生徒用タブレット端末、学習プリント

(4) 本時の学習過程

過程	めあて・まとめ 学習活動・学習内容	指導上の留意点(○)・評価(◇)	形態	配時
つかむ	1 前時の学習内容を確認する。 (1) 夏の効果音と「ジョーズのテーマ」を聴く。 ・イメージの広がり ・情景や場面と音楽との関わり 2 本時の学習内容とめあてをつかむ。	○「ジョーズ」を聴いた最初の感想と前時 でまとめた学習内容を振り返りシートで比 較することで、主体的な学習活動を促せる ようにする。	一斉	5
めあて: イメージ(情景)をもたらす音楽の秘密を探ろう				
ひろげ	3 情景と音楽の要素との関わりを理解する。 (1) 曲想と音楽を形づくっている音楽の要素との 関わりについて理解する。 ・モチーフの変化による比較聴取 ・場面によって変化する違い 4 選択した映画音楽の工夫を探る。 (1) 映画音楽を比較鑑賞し、イメージを共有する。 「ハリーポッター」から「ヘドウィグのテーマ」 「スターウォーズ」から「メインテーマ」 ・物語の理解と比較鑑賞 ・興味のある映画音楽の選択 ・イメージや情景の共有化 ・「強弱」、「音の高低」、「音色」との関連性 (2) 互いの考えを意見交流する。 ・同じ曲を選択した同士でのイメージや情景の共 有 ・曲想と音楽の構造との関わりについての他者 への説明とその共有	○前時に学習した音楽の特徴と関わらせて 考えてみるように助言し、必要に応じていつ でも音楽を聴いて確かめることができるよ うにしておく。 ○感じたことに対して、「音楽の〇〇から」と いう言葉のフレーズを付け足すように、記入 例を示す。活動が滞っている生徒には、机 間指導で支援したり、ペア学習を促したり する。 ○互いの考えが共有できるように、ロイロノ ートの共有ノートを活用する。グループごと に全体に発表し、生徒の考えをつなげ、より 深く音楽を味わえるようにする。 ◇共有ノートの記述【思考・判断・表現】 A 映画音楽がもつ、音楽を形づくっている要素を知 覚し、曲想と音楽の構造との関わりについて自分 の考えを他者に表現できる。 B 映画音楽がもつ、音楽を形づくっている要素を 知覚し、仲間の考えから曲想と音楽の構造との関 わりに気づいている。	一斉 個→ 小グ ルー プ	5 15 15
個人の考えを大切に、見方・考え方を広げるために、ロイロノートを使って選択したシンキングツールにまとめたものを大型 画面に映し、共有することで、小グループによる意見交流を行う。				
まとめる	5 本時の学習を振り返り、次時の活動を知る。 (1) 本時の学習を通して、わかったことを自分の言 葉でまとめ、発表する。 ・情景、ストーリーと音楽の特徴との関連性 ・映画音楽の表現上の特徴の比較	○映画音楽の表現上の特徴について、発 表を通して、学級で共有できるようにする。	個→ 一斉	15
○振り返りシートに記入し、提出する。 ・音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す映画音楽の雰囲気を感じ ながら、知覚したことと感受したこととのかわりについて理解している。【相違工夫】 まとめ： <ヘドウィグのテーマ> チェレスタや木管楽器の柔らかく神秘的な音色が、幻想的なストーリーを表現している。 <スターウォーズのテーマ> 金管楽器と打楽器のはっきりとした音色や華やかで強いリズムが、闘いに挑む少年 の熱い心情を表現している。				

1年生音楽科振り返りシート

1年 組 番 名前()
題材名 鑑賞：「イメージをもたらしている映画音楽の秘密を探ろう」

■学習の振り返り

授業を振り返り、学習したことから考えたこと、わかったこと、学んだこと、気づいたこと、感じ取ったこと、友だちに教えたこと、教えてもらったこと、次の授業でがんばりたいことなどを書きましょう。

月 日()	
めあて：「ジューズのテーマ」の情景が音楽から感じられるのはなぜかを考えよう	
振り返り -----	自己評価は A B C D
先生より <input type="checkbox"/> すばらしい <input type="checkbox"/> OK! <input type="checkbox"/> 力がついてきたね! <input type="checkbox"/> 音楽の要素から・・・ <input type="checkbox"/> よく気づいたね	
月 日()	
めあて：自分が選択した映画音楽からイメージ(情景)をもたらす音楽の秘密を探ろう	
振り返り -----	自己評価は A B C D
先生より <input type="checkbox"/> すばらしい <input type="checkbox"/> OK! <input type="checkbox"/> 力がついてきたね! <input type="checkbox"/> 音楽の要素から・・・ <input type="checkbox"/> よく気づいたね	
月 日()	
めあて：「 」の音楽の面白さやよさの紹介文を作成し、映像とともに届けよう	
振り返り -----	自己評価は A B C D
先生より <input type="checkbox"/> すばらしい <input type="checkbox"/> OK! <input type="checkbox"/> 力がついてきたね! <input type="checkbox"/> 音楽の要素から・・・ <input type="checkbox"/> よく気づいたね	

♪自己評価の判断基準

- A…めあてを十分に達成できた
- B…めあてをどちらかという(70%程度)達成できた
- C…めあてをあまり(40パーセント程度くらいしか)達成できなかった
- D…めあてをほとんど達成できなかった

1 単元名

「木材を用いた製作品の設計・製作」

2 指導観

- 本題材は、中学校学習指導要領 技術・家庭(技術分野)の内容の内容 A(1)から A(2)のAを学習した後に A(2)のイ「問題を見いだして課題を設定し、材料の選択や成形の方法等を構想して設計を具体化するとともに、製作の過程や結果の評価、改善及び修正について考えること。」について指導するものである。課題の設定や材料の成形等に関する生徒の新しい発想を認めるとともに、その発想が他の場面にも利用できるような考えさせることで知的財産を生み出し活用することの価値に気付かせる。また、生活や社会で利用されている材料と加工の技術に込められた工夫や創造性及びそれに関わる知的財産の素晴らしさと、それらがどのように普及してきたかを改めて振り返らせ、知的財産を保護し、活用を図ることが新たな知的財産を創造、保護及び活用しようとする態度を育成することをねらいとする。
- 本学級の生徒は、仲間と声をかけながら意欲的に学習に取り組むことができる生徒が多い。また、話を聞く態度や学習準備などの学習規律は定着している。事前のアンケートでは、小学校段階で約95%の生徒が木材作品製作の経験はあるが、設計から行った生徒はほぼいない状況であった。また、製作時に使用する道具の使用方法なども正しく身につけておらず、正しくない使用方法で作品を製作していたようである。また、空間把握が極端に苦手な生徒もいるが、何かものを作ることに自体に対しては80%以上の生徒が「楽しい」と答えている。これまでの学習では、材料の特徴や、生活の中でどのようにその特徴が活かされているかに気づくような場を設定した。その後、自身の生活に必要な作品の構想・設計を行ってきたが、空間把握が苦手な生徒は平面上での構想や設計も苦手意識が強く、図で表現することが難しい状況であった。しかし、設計図をもとにしたミニチュア作品を製作させ、そのミニチュアを撮影し全体で共有・考察させたことで、空間把握が苦手な生徒も、ものを立体的に捉えることができ、さらにミニチュア製作から設計図の修正に落とし込むことで、より設計の工夫に幅が広がった。
- 指導にあたっては、「材料や加工の特性等の原理・法則と、材料の製造・加工方法等の基礎的な技術の仕組みについて理解する」ために、「技術に込められた問題解決の工夫について考える」ことができるよう授業を展開していく。指導方法の工夫としては、苦手意識をもっている生徒でも「わかった・できた」が実感出来るように ICT を有効活用していく。具体的には、一次の段階では日常の製品をタブレットで調べ、二次の段階では木材の繊維組織を見いだすために、デジタル教科書や実際の木材を用いた実験を拡大提示機で全体に共有し、理解を深めさせるよう指導の工夫をする。また、材料の比較をする際には、消費者や生産者の立場や環境的側面、社会的側面、経済的側面のそれぞれから意見を出し、ロイロノートを用いて意見を交流させ、多様な視点を基に、技術的な価値を見だし、判断することができるように個人思考させる。さらに、三次の段階では、既習内容をもとに自身の生活と紐付かせた作品の設計をすることができるよう工夫する。四次の段階では、具体的な作業のポイントや道具の正しい理解を促すために、編集した動画やスライドを見せたり、意見交流をしたりすることで、根拠を基に正しく作業が行えるよう指導の工夫をする。最後に、五次の段階で作品の相互評価を行い自分や仲間の工夫を評価し、単元を振り返る活動を行う。

3 単元の目標

- 生活の中で利用されている材料と加工の技術についての原理・法則や基礎的な技術の仕組み及び、安全な生活との関わりを理解することができるようにする。【知識・技能】
- 生活の中から材料と加工の技術と安全に関わる課題を見だし、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなどして、課題を解決する力を身に付けることができるようにする。【思考力・判断力・表現力等】
- 安全な生活の実現に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、材料と加工の技術を工夫し、創造しようとする態度を育てる。【主体的に学習に取り組む態度】

4 評価規準

知識・技能	① 材料と加工に関する技術についての基礎的・基本的な知識を身に付け、技術と社会や環境との関わりについて理解している。 ② 材料と加工に関する技術を適切に活用するために必要な基礎的・基本的な技能を身につけている。
思考・判断・表現	③ 問題を見いだして課題を設定し、成形の方法等を構想して設計を具現化している。 ④ 製作の過程や結果の評価、改善及び修正について考えることができている。
主体的に学習に取り組む態度	⑤ 技術の在り方や活用の仕方等に関する課題解決のために、主体的に技術进行评估しようとしている。 ⑥ 課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして材料と加工の技術を工夫し、創造しようとしている。

5 単元計画(24 時間)

次	時	学習活動・内容	指導のねらい	ICT	評価		
					知技	思	主
一	2	1 ものづくりの視点と進め方 (1) 生活の変化から技術の進歩を考える。 (2) 製品の材料にはどのようなものが使用されているか考える。	○技術の進歩を考えるために、100年前の新聞を見て当時の人々の生活を考える場を設定する。 ○プールサイドのイスや教室の机などを例に挙げ、どんな理由で使われているかを考える場を設定する。	(a) (あ)	①		⑤
二	4	2 材料の性質 (1) さまざまな材料の特徴 (2) 身近な材料の木材の特徴と性質について考える。 (3) 針葉樹と広葉樹の特徴と使用場面を考える。 (4) 木材の変形についてどのような法則と原理があるか考える。	○材料の特徴と性質を考えるため、実際に6種類の材料を準備し、手触りや温度・質量などを比べる場を設定する。 ○木材の繊維を知るために、どのような繊維構造をしているかを考える場を設定する。 ○木材の変形について考えるため、丸太からどのように板を取るかで変形の方法が違ってくるかを考える場を設定する。	(あ)	①		⑤
三	5	3 構想図の設計 (1) ものの伝え方を考える。 (2) 製図による立体の表し方 (3) 自分の作品の設計をする。 (4) 設計図をもとにミニチュアを製作する。 (5) ミニチュア製作から見えた課題点を改善し、設計図を手直しする。	○どのように伝えればよいかを考えるため、立体伝言ゲームで工夫する活動を設定する。 ○製図の長所を理解する場を設定する。 ○設計図を書くために、作品使用場面でのどのような問題があるかを話し合い共有する場面を設定する。 ○製作するときのどのような課題があるかを見出すために、ミニチュア作品を作る活動を設定する。	(あ) (い)	②	③ ④	⑥
四	12	4 作品の製作 (1) 道具使用方法を考える。 (2) 仕上がり寸法線を書く。 (3) 切断線を書き入れる。 (4) 両刃鋸で切断する。 (5) 切断箇所を切削する。 (6) 仮組立し、修正する。 (7) 釘打ちの下穴のけがき (8) 下穴あけ (9) 組立て・接合(釘打ち)	○道具類の正しい使用方法を知るために動画を用いて、意見を出し合う場を設定する。 ○修正箇所を正しく見つけるために、仮組立をしたものと、ミニチュア等を比べる場面を設定する。	(a) (あ)	① ②	③ ④	⑥
		(10) 組み立ての修正 (11) 割れの確認、表面研磨 (12) 塗装	○接合するときにミスがないように、正しい順番を考察する場を設定する。	(あ) (い)	②		
五	1	5 作品の相互評価 (1) 設計図・ミニチュア・完成品を見て相互評価・自己評価を行う。	○課題が解決できたか評価するために、設計や製作の過程に対する改善及び修正を考える場を設定する。	(あ)		④	⑥

*活用するコンテンツ等:(a)NHK for School

*活用する学習支援ソフト:(あ)ロイロノート(動画撮影、提出箱) (い)ロイロノート(動画編集) (う)Kahoot!
(え)ミライシード・ドリルパーク

(1) 本時の指導観

前時までに、材料の「下穴あけ」過程までが終わり、本時は「組み立て・接合」過程に入る。接合では釘を用いるが、玄翁の使い方や釘を打つ順番を考えると、接合の順番によっては釘打ちがしづらかったり、ミスをしたときに修正しにくかったりすることがある。それに気づかせるために、まずは材料同士の接合方法を明示し、スライドを視聴する。その後、思考をさせる場を設定し、材料の接合手順を適切に判断し、接合できるようにする。

(2) 本時の主眼

釘打ちの時の状況を考え、適切な順番で接合することができる。 【知識・技能】

(3) 準備

大型提示装置、教師用タブレット端末、生徒用タブレット端末、学習プリント

(4) 本時の学習過程

過程	めあて・まとめ 学習活動・学習内容	指導上の留意点(○)・評価(◇)	形態	配時
つかむ	1 前時迄に仮組立てした材料を準備する。 2 本時の学習内容とめあてをつかむ。	○振り返り用紙を見ることで前時までの内容を確認する場を設定する。	一斉	5
	めあて:接合の方法を考え、正しい手順で正確に接合をしよう。			
ひろげる	3 接合方法について考える。 ・接合の道具の確認(玄翁と釘) ・どの順番で組み立てを行えば、最後まできちんと打ち切ることができるかを考える ・材料同士の接合時にどの順番で打てばミスが最小限になるかを考える *底板と側板等を接合する場合 *背板を接合する場合	○玄翁の使い方と接合方法を確認する。 ○接合の順番を考える際、ロイロノートで写真を例に考える場を設定する。 ○底板と側板の釘打ちを例に、動画を視聴させ、どの順番で釘打ちをすればミスしづらいか、修正しやすいかを考えるよう助言する。	個/ 一斉	10
	4 ペアで正確に接合する。 ・2人~3人組になってお互いにアドバイスし合いながら最初の接合から行う ・釘打ちの順番や板同士の順番など総合的に考え、接合を行う ・使用した道具類などの片付けを行う	○端→端→真ん中の順番で行うこと、釘の頭を打ち込む前にズレの確認をするよう助言する。 ◇様相観察【知・技】 A:正しい玄翁の使い方、ズレがないように適切な順番で接合している B:接合の順番に気をつけながら接合している ○片付けの際に余った釘を前に戻させる。	ペア	25
まとめ	5 学習を振り返る ・本時の接合状況と今後の接合手順を確認する ・振り返りシートに本時の学習の記録を行う	○ミニチュア写真や仮組立て写真に接合が終わった箇所の色を塗るよう助言する。 ○振り返りシートに記入させる。	個	10
	振り返り: ●材料の接合の時に、次の接合で玄翁を動かす空間があるかを常に考えることが大切だと気付いた。次も接合の順番を考えながら接合していきたい。 【工夫】 ●材料同士を接合する時に、接合する順番によって打ちづらくなったり、ボンドがはみ出したりすることに気付いた。正確に接合するために色々な角度からみて接合していきたい。複雑な作品の場合は、これに気を付けておかないと大変だと感じた。 【発展】			

自己評価・振り返り【作業確認用紙】No.1

分野：〔 材料と加工 〕 木材加工

●木材加工の経験はありますか？

●どんな作業が大変だと思いますか？

●どんな物を作りたいですか？

学習・実習前と比べて新たに分かったこと

④

月	日	曜
今日の作業		
自己評価・振り返り		

⑤

月	日	曜
今日の作業		
自己評価・振り返り		

②

月	日	曜
今日の作業		
自己評価・振り返り		

③

月	日	曜
今日の作業		
自己評価・振り返り		

⑥

月	日	曜
今日の作業		
自己評価・振り返り		

⑦

月	日	曜
今日の作業		
自己評価・振り返り		

記入例

月	日	曜
今日の作業		
自己評価・振り返り		

作業区分	目安	作業区分	目安
けがき	2	修正	1
切断 (ノコギリ)	2	接合部のけがき	2
切削 (やすり)	4	下穴あけ	2
仮組立て	2	接合・仕上げ (塗装)	3

時間

【先生評価欄】 ※生徒は何も記入しない

月	日	曜
今日の作業		
自己評価・振り返り		

1年 組 番 氏名 ()

- 1 題材名 住生活
学習指導要領 B(6)ア(イ)家族の安全を考えた住空間の整え方

2 指導観

- 住まいは、家族の生活様式、考え方、家庭の経済的な背景によってもさまざまである。その上、住生活のイメージは居住者の住まいの形態や居住地、さらには生育歴の違いなどによっても大きく左右され、子どもの数だけ個別性や具体性をもつ。そのような現状にある中で、子どもたちが自分の住生活をよりよいものへとするためには、家族・家庭や地域における生活の中から問題を見だし、課題を設定する力の育成が必要である。そのためには、家族や地域・社会との共生を目指した正しい住居観や生活の営みに関わる見方・考え方を育むことが重要である。本題材は、中学校学習指導要領解説技術・家庭編のB住生活(6)「住居の機能と安全な住まい方」を受けて設定している。健康・快適・安全で豊かな住生活に向けて考え、工夫する活動を通して、家族の生活と住空間との関わり、住居の基本的な機能、家族の安全を考えた住空間の整え方に関する知識及び技能を身に付け、これからの生活を展望して、住生活の課題を解決する力を養い、住生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を育成することをねらいとしている。いつ自分の身の回りで起きてもおかしくない自然災害について様々な視点から安全・快適で健康的な住生活を考えることは意義深いと考える。
- 本学級の生徒は、授業中に話し合い、意見を活発に出せる生徒が多い。小学生では快適な住まい方や整理整頓について学習しているが、住生活の中でできる災害への備えについては知らない生徒がほとんどである。また、修学旅行で訪れた人と防災未来センターでは、1995年に起きた阪神淡路大震災について学び、防災の必要性や基本的な知識について理解している。しかし、事前アンケートの結果によると、「災害(地震)に対する備えの必要性を感じているか」という質問では92%が必要性を感じているが、家庭内で具体的な備えができていないかについては72%が「できていない」という結果であった。「防災について家庭の中でどのような取り組みをしているか。」という質問では「家具を固定する」のみが17%の結果であった。地震災害に対し、実際にどのような対策をしたら良いかわからない生徒が多いことがわかる。そのため、災害が起こる前に、部屋の中を点検し、危険箇所を想像する力を身に付け、適切な心がけや準備につながるようにしたい。
- 指導にあたっては、「誰もが安全・快適に住まうための環境を改善させること」を学習課題に設定し、「家族の安全を考えた住空間の整え方について考え工夫する」ことができるよう展開していく。指導方法の工夫については、住居の内部など視覚的に判断しやすい状態にするため、生徒の意見共有のために、ICTを有効活用していく。具体的には、一次の段階で住まいの基本的な役割や日本の伝統的な住まいの特徴について知識を身に付ける。二次の段階では地域のさまざまな災害に備えて、屋内を安全に整備する必要とその方法について知識を身に付けて、具体的な対策を立てられるようにする。さらに、三次の段階では、家庭内事故の種類とその原因を知り、幼児や高齢者の安全を考えた住まい方について工夫する。また、持続可能な社会の実現に向けて、さまざまな住まいと住まい方の工夫があることに繋げていく。自身の住まい方の現状を把握し、できる範囲で改善し、安全・安心かつ快適に暮らせる住まい方について提案させることで、今後の豊かな住生活につなげていくようにする。

3 題材の目標

- 生活と住空間の関わり、住居の機能、家庭内事故や災害から住居を守る方法、安全を考えた住空間の整え方について説明することができる。
- 自分の住まい方を見つめ、家庭内事故や自然災害における家族の安全を考えた住空間の整え方において課題を解決し、解決策を構想することができる。
- 自分の住まい方を振り返り、課題解決に向けてこれからの自分の家族や住生活に生かそうとしている。

4 評価規準

知識・技能	①家族の生活と住空間の関わりが分かり、住居の基本的な機能について理解することができる。 ②地域の特徴を知り、ハザードマップから自分の住んでいる地域の浸水深を調べることができる。 ③住まいの安全確保や避難の方法を具体的に理解することができる。
思考・判断・表現	④自然災害に備えるための住まいの対策について解決策を構想し、課題を解決する力を身につけている。 ⑤家族の安全を考えた住空間の整え方について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。自分の家でできる安全対策を論理的に考え、具体的に方法を表現することができる。
主体的に学習に取り組む態度	⑥健康・快適・安全で豊かな住生活の実現に向けて、住居の機能と安全な住まい方、自身の住生活について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。

5 題材計画(全6時間)

次	時	学習活動・内容	指導のねらい	ICT	評価		
					知技	思	主
一	1	住まいのはたらき 住まいのさまざまな役割	○住居の基本的な役割や家族の生活と住空間との関わりについて理解し、家族が快適に過ごすための住空間の整え方を考える場を設定する。	(b)	①	④	
	1	住まいの空間 空気環境の安全対策	○住まいに必要な空間の使い方を知り、生活行為の分類ができる。 ○家族の安全を考えた住空間の整え方について、工夫できる場を設定する。	(あ)(a)	③	④	
二	1	住まいの安全対策 家庭内での事故と安全対策	○家庭内の事故の種類とその原因を知り、幼児や高齢者の安全を考えた住まい方について考える場を設定する。	(あ)	③		
	1 本時	災害への対策 住まいの地震対策	○地震の災害に備えた住空間の整え方について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想して課題を解決する場を設定する。	(あ)(b)		④ ⑤	⑥
	1	浸水被害の対策 自然災害と安全対策	○ハザードマップを参考に、自分たちが住んでいる地域の危険箇所を知り、避難経路や対策を考え、共有する場を設定する。	(あ)	② ③	④	
三	1	持続可能な住生活を目指して	○持続可能な社会の実現へ向けて、さまざまな住まいと住まい方の工夫があることを知り、バリアフリーやユニバーサルデザインについて理解し、自然や人に配慮した住まいについて考える場を設定する。	(あ)			⑥

*活用するコンテンツ等:(a)NHK for School (b)3DCGで学ぶ住生活

*活用する学習支援ソフト:(あ)ロイロノート(動画撮影、提出箱) (い)ロイロノート(動画編集) (う)Kahoot!
(え)ミライシード・ドリルパーク

6 本時 令和6年11月19日(火)第二次 1時(3/6) 第5校時 第2学年3組教室

(1) 本時の指導観

前時までに、住まいのはたらきや基本的な役割について理解し、本時は安全な住まいについて考える。災害の知識はあるが、家庭内での対策を考えることができる生徒は少ない。そのため、自然災害に備える住空間の整え方を踏まえ、安全などの視点から整え方を工夫することができるようにすることをねらいとする。はじめに、つかむ段階では、過去に起きた地震発生直後の屋内写真から状況を確認し、家具の転倒について着目する。次に、ひろげる段階では、家具の地震対策について転倒防止支柱などの実物を見て、使用方法を理解した後に、部屋の地震対策について危険箇所を予測する。更に、班の中で対策を考える活動を行う。最後のまとめる段階では、具体的な対策や気づいたことなどを発表し、学級の中で共有する。地震から起こり得る部屋の中の被害について想定し、被害の最小限に防ぐための住まいの備えについて対策を考えさせる。

(2) 本時の主眼

地震が起きた時に想定される被害を予測し、安全で快適な住まい方を考え、住空間に関する備えの整え方を考えることができる。【思考・判断・表現】

(3) 準備

教科書、教師用タブレット端末、生徒用タブレット端末、学習プリント

(4) 本時の学習過程

過程	めあて・まとめ 学習活動・学習内容	指導上の留意点(○)・評価(◇)	形態	配時
つかむ	1 前時の学習を振り返る。 ・『人と防災未来センター』で学んだ内容を振り返る。 2 本時の学習内容とめあてを確認する。 ・二次災害の危険性について知る。	○自然災害が毎年発生している事例を挙げ、いつ自分の身の回りで起こってもおかしくないことを確認する。 ○写真を見ながら、過去に起きた地震の被害を知り、家具が住居に及ぼす影響があることを説く。	一斉	5
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">めあて:住まいの地震対策について、部屋の中で行う対策を具体的に考えよう。</div>			
ひろげる	3 家具の地震対策について考える。 ・家具の地震対策について転倒防止支柱、L型金具など、実物を見て、使用方法を理解する。	○地震対策には大きく分けて3種類あることを確認する。 ・家具の地震対策 ・寝る場所の安全確保 ・避難経路の確保	一斉	7
	4 部屋の中から危険箇所を見つける。 ・部屋の写真の中から地震被害が合った時の危険箇所を探し、印をつける。 ・印をつけた箇所の対策を班で話し合う。 ・印をつけた危険箇所を提出箱に入れて共有ノートの中で共有する。 ・対策を記入したものを提出し、クラスで共有する。	○ロイロノートで配布した写真を見て、地震被害の時、どうなるかを予想し、危険箇所に印をつけ、対策を記入するよう助言する。 ○部屋の写真を各班に送り、班の中でどのように対策をしたらよいか意見を出し合うよう伝える。 ○共有ノートで班ごとに危険箇所を共有し、それぞれ対策を考える場を設定する。	個人 班	5 10
まとめる	5 学習を振り返り、まとめを行う。 ・災害を予想し、自分の生活の中で取り入れていきたい対策を考える。 ・学習プリントに振り返りを記入する。	○学習した中で自分の家での危険箇所を考え、対策を学習プリントに記入するよう促す。 ○災害を予想し、自分の家でできる対策について具体的に考えることができたか ◇振り返りシート【思考・判断・表現】	個人 一斉	7 5
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">○地震被害を想定することで、住まいの中から危険箇所を探すことができた。(創造) B ○家具を移動することや、転倒防止など具体的な対策を考えることができる。(工夫) ○自分の家でできる対策について考えることができた。(発展)</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">まとめ:災害時に起こる危険を事前に予測し対策を行うことで、被害を最小限に抑えことができる。</div>			

家庭科振り返りシート

2年組 番号前())	日付(2024年 月 日)開始～
教科・科目(家庭科)	単元テーマ()

■この単元の学習をはじめたときと、学習し終わったときの感想をメモしておこう。

<p>【はじめ】</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p>	<p>【おわり】</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p>
-----------------------------------------------------	-----------------------------------------------------

■学習の振り返り ☆めあてに対して、学習内容を理解できたか⇒◎・○・△・×

日付	○学習内容	わかったこと	疑問点
月 日 ()	☆理解度⇒【 】
月 日 ()	☆理解度⇒【 】
月 日 ()	☆理解度⇒【 】

月 日 ()	☆理解度⇒【 】
月 日 ()	☆理解度⇒【 】
月 日 ()	☆理解度⇒【 】
月 日 ()	☆理解度⇒【 】
月 日 ()	☆理解度⇒【 】

■おわり⇒

この単元の学習で、はじめて知ったことや、興味を持ったこと、更に知りたいこと、疑問点などをまとめよう。

.....
.....
.....

1 単元名 球技(ネット型)「バドミントン」

2 指導観

○ 球技におけるネット型とは、コート上でネットをはさんで相対し、身体や用具を操作してボールやシャトルを空いている場所に返球し、一定の得点に早く到達することを競い合うゲームである。

バドミントンは、様々なストロークを活用しながらラリーを続けたり、緩急をつけた打球や相手を前後左右に揺さぶる打球を打って得点を競い合ったりするところ楽しさがある。第3学年では、第1・2学年での学習を受けて役割に応じたシャトルや用具の操作によって、仲間と連携した攻撃を組み立てたりして空いた場所をめぐる攻防を展開できるようにすることが求められている。この単元では、ラリーを切って得点をとるために、シャトルを相手コートに強く打ち込むスマッシュに焦点を当てて取り組ませたい。また、単元の後半では仲間との連携を図って攻防を展開できることを目的にダブルスのゲームを行う。バドミントンは、互いにシャトルを打ち合うだけで楽しくなってくるものである。本単元を通して、将来に向けて運動への愛着を高めることは、生涯スポーツにつながっていく可能性があり大変意義深いと考える。また、シャトルをネットより高い位置から打ち込むスマッシュを意識し習得することは、2年次に学習したハイクリアとあわせて、空いた場所をめぐる攻防をするために有効であることに気づかせ、そのために必要なステップやテイクバック、スイング、インパクト、フォロースルーについて理解させ、互いにラリーを切ろうとしつつもラリーが継続するような展開をねらっていきたい。

バドミントンの学習を通して、仲間とともに運動への愛着感を育てつつ、スマッシュの技術を身に付けることで、よりレベルの高いバドミントンの特性を味わわせたい。

○ 本学級の生徒は、元気がよく、お互いに声をかけ合いながら意欲的に学習に取り組むことができている。事前アンケートでは、体育の授業が好きな生徒は「とても」「やや」を含めて93.9%で、体育が好きな生徒が多い。しかし、体育が得意と感じている生徒は「とても」「やや」を含めて57.6%まで下がった。また、バドミントンが好きな生徒は「とても」「やや」を含めて97%であるが、バドミントンが得意と感じている生徒は「とても」「やや」を含めて70%である。このことから、運動が好きではあるものの苦手と感じている生徒も一定数おり、苦手な生徒のモチベーションを下げないような配慮が必要である。運動が苦手な生徒は「うまくできない時」「みんなとの差がある時」「試合で失敗した時」などに運動を苦手と感じると答えており、よいところをほめて前向きな声かけを続けるなど、個人の能力に差があっても全員が楽しめる学習を行う必要がある。

○ 指導にあたっては、空いた場所をめぐる攻防をするために、シャトルを相手側コートに打ち込むスマッシュに焦点を当てて取り組ませたい。そのためにスマッシュの練習を行い、昨年度に学習したハイクリアを使うことで、空いた場所をめぐる攻防をするとともに、ダブルスのゲームを行うことで、仲間と連携して動くことによって攻撃したり守ったりすることができるように授業を展開していく。

はじめに一次の段階では、オリエンテーションを通して、2年次に学習したことを想起させ、ルールやマナーについて再確認し、安全に活動できるようにする。その後、1対1で攻防を行い、シャトルや用具の操作に慣れさせ、ラリーを続ける楽しさを感じさせることで、モチベーションの向上をねらう。

次に二次の段階では、スマッシュについて説明と練習を行った後、動画撮影を行い、自らの課題の発見と出来映えの評価を行う。課題を明確にした後、練習を行い、課題解決を図る。その後、仲間と連携して空いた場所をめぐる攻防をするためにダブルスのゲームを行う。その際、スマッシュとハイクリアの有効性について確認を行う。

最後に、三次の段階でダブルスのリーグ戦を行い、単元を振り返り自己評価を行う。

3 単元の目標

- バドミントンでは、ペアや個人で攻防を展開し、勝敗を競う楽しさや喜びを味わうとともに、用いられる技術には名称があり、それらを身につけるためのポイントを理解し、スマッシュを身につけて空いた場所をめぐる攻防をすることができる。(知識及び技能)
- 自己や仲間の課題を発見して、合理的に解決できるよう知識を活用したり応用したりできる。また、自己や仲間の課題について他者に分かりやすく伝えることができる。(思考力、判断力、表現力等)
- 周囲の安全に気を配り、仲間と協力して互いに助け合い教え合い、練習やゲームに自主的に取り組むことができる。(主体的に学習に取り組む態度)

4 評価規準

知識	①バドミントンにおいて用いられる技術には名称があり、それらを身につけるためのポイントを理解している。
技能	②腕を強く振って、ネットより高い位置から相手側のコートにシャトルを打ち込むことができる。 (スマッシュ) ③仲間と連携した動きによって、空いている場所を攻撃したり守ったりすることができる。
思考・判断・表現	④自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫している。 ⑤成果や課題等、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。
主体的に取り組む態度	⑥勝敗等を冷静に受けとめ、相手を尊重しフェアなプレーを大切にしている。 ⑦仲間に助言したり考えを出し合ったりして、助け合い教え合っている。 ⑧健康・安全を確保している。

5 単元計画(10時間:本時4時)

次	時	学習活動・内容	指導のねらい・内容・方法	ICT	評価			
					知	技	思	主
一	1	○オリエンテーション ・特性理解 ・ルールやマナーの理解	実技の教科書や動画を活用してバドミントンの特性について理解できるようにする。 ・示範してルールやマナー、安全について伝えるようにする。		①			⑧
	2	○1対1の攻防 ・ラリーの継続	シャトルや用具の操作に慣れ、ラリーを続けることに楽しさを感じることができる。 ・1対1(コート半分)で行うことで、触球回数を増やす。 ・打ち方よりもラリーの継続を重視する。		①			⑥ ⑧
二	3	○スマッシュ練習 ・動画視聴 ・技術ポイント確認 ・動画撮影(3人組) ピン球打ち	スマッシュの有効性について理解し、技術ポイント意識しながら練習することができる。 ・個人でいつでも見ることができるよう模範動画の共有を行う。 ・個人の動画を撮影する。	(a) (あ)	①		④	⑥ ⑧
	4 本時	○スマッシュ練習 ・動画確認、共有 ・課題練習(3人組)	スマッシュについて、グループ学習での動画撮影を通して、自分や仲間の課題や出来映えに気づき、その内容を伝えることができる。 ・技術のポイントを意識して、自分や仲間を見る視点を確認するように声かけを行う。 ・自らの動画を互いに確認し、課題やできばえを共有させる場を設定する。	(a) (あ)		②	④ ⑤	⑦
	5	○シングルのゲーム ・スマッシュ練習 ・ハイクリア練習 ・前後を意識したゲーム	スマッシュとハイクリアを使って、コートの前後を意識して打ち合うようにする。 ・シングルのゲームを行い、前後を意識して動く場を設定する。	(a) (あ)		② ③		⑥ ⑧
三	6	○ダブルスのゲーム ・スマッシュ練習	空いた場所をめぐる攻防をするために、スマッシュの有効性を理解できるようにする。	(あ)		② ③	④	⑥ ⑧
	7	・ハイクリア練習 ・ゲーム	・スマッシュの有効性理解のため示範を行う。 ・スマッシュの打ち方のポイントについて説明を行う。					
	8	○ダブルスのリーグ戦 ・空いた場所をめぐる攻防	スマッシュを生かして空いた場所をめぐる攻防をすることができる。 ・協力しながら点示等を行えるようにする。 ・周囲の安全に気を配ってリーグ戦を進められるように声かけを行う。			② ③	⑤	⑥ ⑦
	9							
	10	○スマッシュのテスト ・個別テスト ・動画撮影	技術のポイントを意識して、高い位置からシャトルを打ち込むことができる。 ・シャトル出しに差が出ないように教師が行うようにする。 ・フォームの評価を行うために、動画撮影を行う。	(い)	①	②		

*活用するコンテンツ等:(a)イメージ動画「スマッシュ」(youtube)

*活用する学習支援ソフト:(あ)ロイロノート(動画撮影・動画再生)(い)ロイロノート(提出箱)

5 本時 令和6年11月19日(火) 第二次2時(4/10) 第4校時 体育館にて

(1) 本時の指導観

これまでの授業で、シャトルや用具の操作の基本的な練習を行い、シングルスゲームでラリーを続けることを中心に行ってきた。ラリーが続くようにはなってきたが、ラリーを続けるために相手がいるところに返球してほとんど動かずにラリーを続ける状況が増えてきた。そこで、前時では「シャトルを高い位置から打ち込むこと(スマッシュ)」に着目し、技術ポイントを確認した後、練習を行い、個人の動画撮影を行った。本時は、グループ学習において撮影した動画の確認・共有、その後の練習を通して、自分や仲間の課題や出来映えに気づき、解決に向けて話し合うことで、その内容を伝えることができることを主眼におく。

はじめに、つかむ段階では、前時の確認を行い、技術のポイントははっきりさせることで、課題や出来映えの気づきを促す。

次に、ひろげる段階では、グループ学習を行い互いの動画確認を通して、自分や仲間の課題や出来映えに気づかせる。その際、分かりやすくするために学習プリントを参考にチェックさせながら行うようにする。また、自らの課題に応じた練習方法を確認しながらグループで協力して効率よく練習できるようにする。

最後に、まとめる段階では、グループで気づいたことや課題について振り返り、その後、全体で発表・交流することで情報を共有する。

(2) 本時の主眼

シャトルを高い位置から打ち込むこと(スマッシュ)について、グループ学習での動画確認・共有を通して、自分や仲間の課題や出来映えに気づき、その内容を伝えることができる。

【思考力・判断力・表現力】

(3) 準備

バドミントン用具(支柱、ネット)、ホワイトボード、大型提示装置、生徒用タブレット端末、学習プリント

(4) 本時の学習過程

過程	めあて・まとめ 学習活動・学習内容	指導上の留意点(○)・評価(◇)	形態	配時
つかむ	1 準備運動を行う。 ・ジグザグ体操、笑点体操	○関節の可動域を広げ、大きな動きで運動ができてきているか確認をし、意欲的に活動できるように声かけを行う。	一斉	10
	2 本時の学習内容とめあてをつかむ。 めあて:どうすればシャトルを高い位置から打ち込めるか自らの課題を確認して練習に取り組もう ・前時の振り返り ・技能のポイント確認 ・グループ学習の説明	○シャトルを高い位置から打ち込むことの有効性を確認し、課題意識をもたせるようにする。 ○技術のポイントをはっきりさせることで、自分や仲間の課題に気づけるようにする。 ○課題に応じた練習方法を設定する。		
ひろげる	3 グループ(3人組)学習を行う。 ・動画確認、共有 ・グループで課題確認 ・練習方法選択	○技術のポイントを意識して、自分や仲間を見る視点を確認するように声かけを行う。 ○動画を確認し、課題やできばえを共有させる。	グループ	18
	4 グループで練習を行う。 ・各自が選択した課題練習 ・必要に応じて動画撮影、確認。	○自らの課題に応じた練習を選択させ、グループで協力して取り組ませる。(プリント参照) ◇学習プリント【思】 A:シャトルを高い位置から打ち込むための自らの課題を確認でき、課題解決のために有効な練習に取り組めた。 B:シャトルを高い位置から打ち込むための自らの課題を確認できた。	グループ	10
まとめる	5 本時の振り返りとまとめを行う。 ・学習プリントに振り返りを記入 ・全体発表・交流	○気づいたことや課題と感じたこと等を振り返り、学習プリントに記入させる。 ○振り返りについて発表させ全体共有する。	一斉	12
	<振り返り> ・少し前の高い所で打つことが分かった。肘を引いて(テイクバック)高い所で打つことで力強く打つことができた。 (結果) ・素振りをして、肘を伸ばして打って練習したら、シャトルを相手コートに打ち込むことができた。(方法・学び方) ・相手コートに打ち込むことができたので、次はリアと組み合わせてゲームをしたい。(統合・発展)			
	<まとめ(個人)> 技術のポイントに気づき、それに沿って動きを観察することで、動きのよさや課題を明確にできた。			

■単元の目標

■振り返り <例> (結果) ..が分かった,できた (方法・学び方) ..をしたら..を意識したら

(統合・発展) ..ができた,分かったので,次は...

日	本時の授業で分かったこと, できたこと	本時授業の振り返り
① /		
② /		
③ /		
④ /		
⑤ /		
⑥ /		

⑦ /		
⑧ /		
⑨ /		
⑩ /		
学習前と比べて新たに分かったこと, できるようになったこと, などについてまとめよう		

1 題材名 「先生や友だち、家族に喜んでもらえるようなおにぎらずを作る」

☆ 生徒観

本校おおぞら学級(知的障がい特別支援学級)の生徒は、将来地域や社会とつながって自立していくことを個別の願いとする、3年男子2名、2年男子1名、2年女子1名、1年男子1名、1年女子1名の計6名で構成している。対象となる1年A男は、基本的に他者とかかわることが好きであり、級友と会話をする姿をよく見る。しかし、人とかかわりをもつ中で、相手の気持ちを気にかけることなく自分だけの思いで接したり、周りの状況や雰囲気を感じることなく思いのままに行動したり発言したりする場面も少なくない。また、1年B女は、周りに目を向け、困りそうな仲間がいたらその仲間のために行動することができる。しかし、語彙が少なく表現が幼いため、自ら積極的にコミュニケーションをとろうとはしない。

これまでの領域・教科を合わせた指導の中で、自分の思いや考えを相手に伝える、相手の思いや考えも聞く、相手が話しているときはしゃべらずに静かに聞く等といった基本的な話し方や聞き方については、将来自立するために必要なコミュニケーション学習として行ってきた。しかし、身近な場面では、コミュニケーションがうまくとれずにトラブルになったり、ルールや手順をとばして活動をすすめたりする場面も少なくない。そのため、自分勝手な行動をして友だちや先生から注意を受けたり、失敗して途中で投げ出してしまったりすることがある。

☆ 教材観

本題材では、おにぎらずづくりを通して、よりよく人とかかわることや自分でやり遂げることができる生徒の育成をめざしている。主な学習内容としては、手順やルール、相手意識、肯定的な自己理解と他者理解等がある。

本題材で行うおにぎらずづくりは、暮らしの中でも最も大切な食にかかわるものである。日常生活の中でも繰り返し体験ができ、生徒にとって最も興味・関心がある活動であり、主体的な活動を促しやすい。また、おにぎらずづくりの過程の中で、自己選択や要求、依頼の場面を設定することでコミュニケーションをとることが必要になる。

さらに、相手に喜んでもらえる手渡し方や言葉のかけ方等、相手が喜んでくれるようなかわり方を考えることも必要となる。

そして、これらの経験が、誰かのためにして差し上げることの喜びや思いやりをもった人とかかわり方に気づくであろうと考える。

☆ 題材計画

題材計画 15時間

- 1 手順表や動画を見ながら、教師と一緒に基本のおにぎらず作りをする。(5/15)
 - (1) おにぎらずを作る。
 - (2) 食べた感想をマイレシピノートに記録する。
- 2 自分でいろいろなおにぎらずを作る。(4/15)
 - (1) 準備→調理→片付けまで自分で行う。
- 3 先生や友だちにおにぎらずを作る。(3/15) 本時(3/3)
 - (1) 先生に自分でおにぎらずを作る。
 - (2) 作ったものを先生や友だちに渡す。
- 4 家族におにぎらずを作る。(3/15)
 - (1) 栄養素や見た目、食感等を考えて、おにぎらずを作る。
 - (2) 活動のまとめをする。

☆ 手立て

- ①ユニバーサルデザイン (●)
 - <シンプル>
 - ・本時の学習で何ができればよいかを明確にしている。
 - <クリア>
 - ・個別の手順表を表示する。
 - <ビジュアル>
 - ・タブレットを活用し、前時の活動の様子を映しておく。
 - <シェア>
 - ・使う道具を共有する。
 - ・振り返りの場面でお互いの感想を伝えあう。
- ②合理的配慮 (■)
 - ・番号や矢印による行動情報
 - ・丁寧な言葉遣いを示したカード
- ③ICTの活用 (▲)
 - ・映像による学習意欲の喚起づけ

☆ 自立活動の目標

- 動画やカード、表を見て、おにぎらず作りの手順・内容・方法を理解し、順序立てて自発的に行動することができる。自立活動4-(2)
- 自分の思いの伝え方が分かり、相手に分かりやすく正しい言葉遣いで伝えることができる。自立活動6-(5)
- 相手の要望や意見を素直に受け入れ、活動にうつすことができる。自立活動3-(1)(3)

2 本題材における個別の生徒の実態と指導目標

	生徒の実態	本単元の個別の目標
生徒 A (A 女)	<ul style="list-style-type: none"> ・苦手なことを後回しにしたり、手が止まったりする。 ・複数の指示が同時に出た際に、分からなくなったら教師に質問することができる。 ・自信がなく、受動的である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・動画やカード、表を見て、おにぎらず作りの手順・内容・方法を理解し、順序立てて自発的に行動することができる。 ・状況に応じて、カードと言葉を結びつけて、正しい構成の文で相手に要求や依頼を伝えることができる。
生徒 B (B 男)	<ul style="list-style-type: none"> ・相手の立場になって考えると理解することができるが、教師の働きかけが必要である。 ・指示が出た際は、理解ができていても全体よりも少し遅れて行動することが多い。 ・複数の指示が同時に出ると、何から取り組めばよいか分からず、動けない。 ・選択肢を与えても、自分の考えと少し違うと選ぶことができない。 ・自分の気持ちを表現するのに時間がかかり、自由度が高いものほど顕著になる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・動画やカード、表を見て、おにぎらず作りの手順・内容・方法を理解し、順序立てて自発的に行動することができる。 ・自分の思いを相手に分かりやすく正しい言葉遣いで伝えることができる。 ・相手の要望や意見を素直に受け入れ、活動にうつすことができる。

3 題材計画(15時間)

学習活動・内容	教師の支援	ICT
1 手順表や動画を見ながら、教師と一緒に、基本のおにぎらず作りをする。 (第1時～第5時) (1)おにぎらずを作る。 ・おにぎらず作りの手順 ・調理道具の扱い方や計量の仕方 (2)食べた感想をマイレシピノートに書く。 ・見た目や食感 ・感想と改善点	<ul style="list-style-type: none"> ○食への興味・関心を高めさせるために、今までの昼食時の写真をもとに感想を出し合うように指示する。 ○A 女基本のおにぎらずの作り方を段階的に覚えることができるように教師の支援を少しずつ外す。 ○B 男おにぎらずの基本の作り方は、最初の授業で書かせ、具の作り方のみ、分かりやすく書けるようプリントに工夫を入れる。 ○おにぎらずの写真をロイロノートで提出するように指示する。 	(あ)
2 色カードを使って、自分でいろいろなおにぎらずを作る。 (第6時～第9時) (1)準備→調理→片付けまで自分で行う。 ・見た目とていねいさ ・食事の姿勢や方法 ・後片付けの仕方	<ul style="list-style-type: none"> ○栄養のバランスを確認できるように赤・黄・緑のカードに栄養素を示したフラッシュカードを提示する。 ○B 男ていねいさを示す基準の写真を準備しておく。 	(あ)
3 先生や友だちにおにぎらずを作る。 (第10時～第12時)12/15 (1)先生に自分でおにぎらずを作る。 ・材料の決定の仕方 ・報告や要求の仕方 (2)作ったものを先生や友だちに渡す。 ・ていねいな言葉での伝え方 ・相手を思いやった渡し方	<ul style="list-style-type: none"> ○視覚的な面で学習意欲を喚起できるように先生や友だちからのメッセージをタブレット端末に録画しておく。 ○材料や数量が分かるようにマイレシピノートを冊子にして、毎時間準備するものにする。 ○簡単な要求文の例を、カードに分けて提示しておく。 	(あ)
4 家族におにぎらずを作る。 (第13時～第15時) (1)栄養素や見た目、食感等を意識して、様々な種類のおにぎらずを作る。 ・人との接し方 (2)活動のまとめをする。	<ul style="list-style-type: none"> ○家族に喜んでもらえるように、目的に合ったおにぎらずを写真や五感を使って紹介できるようにする。 ○自宅でも活用できるようにこれまでのレシピを簡潔にまとめさせる。また、保護者にも読んだ後に感想を書いてもらうように依頼する。 	(あ)

*活用するコンテンツ等:(a)NHK for School

*活用する学習支援ソフト:(あ)ロイロノート(動画撮影、提出箱) (い)ロイロノート(動画編集) (う)Kahoot!
(え)ミライシード・ドリルパーク

4 本時 令和6年11月19日(水) 第3次3時(12/15) 第5校時 調理室

(1) 本時の主眼

相手の要望や意見を意識して、おにぎらずを作り、渡すことができる。

(2) 本時の目標・評価基準・評価方法

	個別の目標	評価基準(B)・評価方法
A女	要求や手渡し方を、言葉カードを見ながら相手に伝えることができる。	◇伝えたい思いを、相手を見ながら相手に聞こえる声で伝えることができる。 (様相観察) 自立活動3-(3)
B男	報告や要求、手渡し方等を、言葉カードを見ながら丁寧な言葉で相手に伝えることができる。	◇伝えたい思いを、言葉カードを用いて、相手に伝えることができる。 (様相観察) 自立活動3-(1)、3-(3)

(3) 本時の学習過程

過程	めあて・まとめ 学習活動・学習内容	指導上の留意点(○)・評価(◇)	配時
つかむ	1 前時までのそれぞれの活動を振り返り、本時の各自の活動の見通しを持つ。 ・スケジュール表の提示 めあて 【生徒A】手順表を見ながら、自分でおにぎらずをつくろう 【生徒B】もらった人が喜ぶ、おにぎらずをつくろう	○振り返り用紙と前時の作業の動画を用いて、各自のこれまでの振り返りを行う。 ○活動に見通しを持つことができるように、各自の活動の流れを提示しておく。	7
ひろげる	2 各テーブルに分かれて活動をする。 (1) 先生にお礼におにぎらずを作る。 ・調理手順の確認 ・材料や調理器具の確認 ・教師への要求の仕方 ・報告、質問の仕方 ・ていねいな言い方 ・上手な手渡し方	○先生のメッセージの映像を見せ、相手意識をもって作ることができるようにする。 【A女】 ○足りない道具に対して、自ら要求を表現できるように言葉カードを示しておく。 【B男】 ○手順表を見たり操作をしたりしながら、順序に沿って活動できるようにする。 ○足りない道具に対して、自ら要求を表現できるように丁寧な言葉づかいカードを示しておく。	30
まとめる	3 本時を振り返る。 (1) 相手に気持ちを込めた言葉で渡す。 ・ていねいなラッピング (2) 振り返り用紙に記入し、感想を発表する。 【コミュニケーション】 ・感想の伝え方 まとめ:相手のことを考えて、おにぎらずを作り、渡すことができた。	○心を込めて、ていねいな言葉で相手に渡すことができるように、言葉カードを提示しておく。 ○自分で作りあげたということを感じることができるように、がんばった点という視点で振り返る場を設定し、発表できるようにする。	10
	4 次時の活動の確認をする。 ・家族に作るおにぎらずのレシピを考える。		3

単元【 年 組 番 氏名()】

学習前：この単元を取り組むときに自分の苦手なこと

学習後：学習前と比べて、できるようになったことをかこう

感想・質問など

学習プリント No.() 振り返る内容	自己評価			
	1:いいえ	2:少し	3:まあまあ	4:はい
今日の授業の内容は分かりましたか。	1	2	3	4
	1	2	3	4
	1	2	3	4
	1	2	3	4
	1	2	3	4
	1	2	3	4

【分かったことや感じたことを書こう】

学習プリント No.() 振り返る内容	自己評価			
	1:いいえ	2:少し	3:まあまあ	4:はい
今日の授業の内容は分かりましたか。	1	2	3	4
	1	2	3	4
	1	2	3	4
	1	2	3	4
	1	2	3	4
	1	2	3	4

【分かったことや感じたことを書こう】